

平成28年1月21日

事業経過報告書

文部科学省初等中等教育局長 殿

都道府県教育委員会等名 高知県教育委員会

所 在 地 高知県高知市丸ノ内1丁目7番52号

代 表 者 職 氏 名 高知県教育長 田村 壮児

平成27年度英語教育強化地域拠点事業における事業経過報告書を提出します。

1. 事業の実施期間

委託を受けた日 ～ 平成28年3月31日

2. 強化地域拠点の学校名 (学校数が多い場合は欄を追加すること)

ふりがな	こうちけんりつこうちにしこうとうがっこう	ふりがな	まつぎ ゆうすけ
学校名	高知県立高知西高等学校	校長名	松木 優典
ふりがな	なんこくしりつ こうなん ちゅうがっこう	ふりがな	まつうら まもる
学校名	南国市立香南中学校	校長名	松浦 守
ふりがな	なんこくしりつ にっしょう しょうがっこう	ふりがな	こだ みち
学校名	南国市立日章小学校	校長名	小田 通
ふりがな	なんこくしりつ おおみなと しょうがっこう	ふりがな	おかだ けんじ
学校名	南国市立大湊小学校	校長名	岡田 兼治

3. 研究内容

(1) 研究開発課題

国際化時代に必要なコミュニケーション能力を育成するため、小学校第1学年で外国語活動を、第3学年から教科としての「英語科」を新設した場合の教育課程、指導及び評価方法並びに中学校・高等学校の教育課程との円滑な接続の在り方についての研究開発

(2) 研究の概要

本強化地域の小中学校では、平成21年度から文部科学省指定「英語教育改善のための調査研究事業」、「英語教育研究開発事業」を受け、小学校第4学年から週1コマの「英語科」を実施してきた。その間、児童生徒は、外国語活動や英語の授業に楽しく参加でき、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度は、育ってきている。しかし、小学校で培ったコミュニケーション能力の素地を中・高等学校において生かすことが十分ではなく、児童生徒の学びの連続性や指導方法の円滑な接続に課題があると考えられる。

このことから、本強化地域においては小学校第1学年で外国語活動を、小学校第3学年から教科としての「英語科」を新設し、学習内容の系統性、指導方法の継続性及び「読む・書く」指導の段階的な導入をさらに研究することで、小中高の滑らかな接続と4技能の発達段階に応じた育成を図ることができると思う。

また、本強化地域では、昨年度に引き続き、南国市立香南中学校区の2小1中と高知西高等学校において、学習内容の系統性、指導方法の継続性を目指したカリキュラムを作成し、小中高の連携の充実を図っていく。

(3) 現状の分析と仮説等

①現状の分析と研究の目的

本中学校区では、小学校での英語科を新設し、小中高の学習内容の系統性、指導方法の継続性を図り、より滑らかな接続と小学校段階での段階に応じた、「聞くこと」「話すこと」を重点に、「読むこと」「書くこと」も含む4技能を育成することとして、取り組んできた。

これまでの取組の成果として、児童の89%が「英語の授業が好き」と答えており、外国語活動や英語の授業に楽しく取り組み、積極的に友だちともコミュニケーションを図ろうとすることができている。また、児童英検（ブロンズ）でも、5・6年生の平均正答率が88%であり、小学校では英語を使うことを目的としたコミュニケーション能力が育成されてきている。しかし、中学校では、「英語の授業が好き」と答える生徒が60%である。英語検定の取得率も小中のつながりを意識して授業改革が進んだ1年生では5級97%に至ったものの、2年生4級24%、3年生20%であり、小学校での学びや活動が中・高等学校の英語学習に効果的に接続し、英語の学力が向上しているとは言いきれない。

英語を使うことを目的としたコミュニケーション能力の育成を目指した目標の一貫性に課題があったので、小中を貫くCAN-DOリストを作成し、授業実践や評価に生かすことができるようになり、小中のつながりは改善された。しかし、高等学校との一貫性のあるCAN-DOリストは作成できていない。

さらに、「読むこと」「書くこと」の導入時期と指導方法についても実践研究をはじめたが、【読むことに関する調査】から分かるように、まだ系統的かつ効果的な指導に至っていない。

このことから、さらに小中高の学習内容の系統性、指導方法の継続性を図り、より滑らかな接続と小学校段階での段階に応じた、「聞くこと」「話すこと」を重点に、「読むこと」「書くこと」も含む4技能を育成するべく実践研究を深めたいと考えた。

②研究仮説

小学校での英語科を新設し、教育課程（「読むこと」「書くこと」の導入時期や指導方法の研究含む）、評価規準等を児童の発達段階や中・高等学校の接続を見据えて作成し実践することで、小中高の英語教育の連続性のある学びが生まれ、児童生徒の英語を使ったコミュニケーション能力が向上するだろう。

具体的には、①小学校「英語科」のカリキュラムの作成（「読むこと」「書くこと」の導入時期と方法の研究を含む）、②児童の意欲を高める学習評価の在り方、③小中高をつなぐ系統的なカリキュラム作成（CAN-DOリスト形式の学習到達目標の設定）、④中学校での指導内容の高度化等について、研究を深める。

③研究成果の評価方法

○小中高の効果的な接続を図った教育課程の作成

○児童生徒・教職員への意識調査（年2回）

○英語検定、標準学力調査、高知県学力定着状況調査及び児童英検の実施

小学校においては、児童英検得点率85%以上、意識調査の肯定的評価90%以上を目指す。

中学校においては、中学校1年生で5～4級、2年生で4～3級、3年生で3～準2級を目標と

して、個々の能力に応じた級の合格を目指して、平成29年度に3年生の英語検定3級取得率80%を目指す。

(4) 研究開発型 ※平成27年度新規採択件については、平成26年度は斜線を引くこと。

	開始学年及び週当たり授業時数コマ			
	第一年次 (H26)	第二年次 (H27)	第三年次 (H28)	第四年次 (H29)
①小学校 外国語活動型	第2学年 1コマ	第1学年 1コマ	第1学年 1コマ	第1学年 1コマ
②小学校 教科型	第4学年 2コマ	第3学年 1コマ 第4学年 2コマ	第3学年 1コマ 第4学年 2コマ	第3学年 1コマ 第4学年 2コマ

(5) 研究計画 ※平成27年度新規採択件については、第一年次から第三年次まで記載すること。

小学校	一年次	<p>【平成26年度】</p> <p>○第2・3学年 外国語活動 年間35時間<自主教材> ○第4～6学年 英語科 年間70時間<使用教材 “Hi, friends!!1、2”、自主教材></p> <p>◆学校全体で取り組み、効果的な小中・小中連携を図るための組織を構築する。 ◆教員の指導力向上のための校内研修の持ち方についての共有を図る。 <例>教員の授業力や英語力向上についての研修計画を立てる。 ◆目標と評価の一体化や付けたい力を明確にした単元計画の見直しを図る。 <例>中学校との接続を考えた小学校段階での CAN-DO リストの作成。 <例>時数増分で児童の意欲や興味を高める指導方法の工夫を図り、定着を目指す。</p> <p>◇強化地域内の中学校及び高等学校との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校での年間3回の授業参観 ・高等学校での年間1回の授業参観 ・高等学校教員、中学校教員との T-T <p>◇外国語教育担当教員の位置付け (加配教員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国の中央研修への推進リーダーの参加と成果普及 ・県事業コア・ティーチャー育成プログラム受講と校内への伝達 <p>◇先進校視察</p> <p>◇研究成果の発信・普及・検証</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県事業における公開授業及び県連絡協議会
	二年次	<p>【平成27年度】</p> <p>○第1学年 外国語活動 年間35時間<自主教材> ○第2学年 外国語活動 年間35時間<使用教材 “Hi, friends!!1”及び自主教材> ○第3学年 英語科 年間35時間<使用教材 “Hi, friends!!1”及び自主教材> ○第4学年 英語科 年間70時間<使用教材 “Hi, friends!!2”及び自主教材> ○第5・6学年 英語科 年間70時間<使用教材 Hi, friends!!2”及び文部科学省 H26年度配付予定の補助教材></p> <p>◆小学校から高等学校までの接続を考えた CAN-DO リストの作成 (小中は作成済) ◆CAN-DO リストを基に、児童の到達度をチェックする方法を改善する。 ◆検証した一年次の研究の成果と課題を踏まえて、カリキュラムを改善する。 <例>小学校における各学年で、何をどのくらい指導するのかシラバスを作成する。(語彙、表現、ストラテジーなど) ◆発達段階に応じた「読むこと・書くこと」の指導の系統について研究する。 <例>発達段階と学習経験を踏まえた「読む・書く」指導の開始時期と指導内容の系統表を作成する。(アルファベットの認識、大文字小文字の導入から小学校段階での指導について)</p>

	二年次	<p>◆<u>児童の発達段階に即し、コミュニケーション能力や意欲を高める学習評価の在り方について研究する。</u></p> <p>《例》目標を達成させるための評価規準や評価方法の計画を立てる。</p> <p>◆<u>学級担任や英語指導教員の指導力を向上させるために研修の充実を図る。</u></p> <p>◇強化地域内の中学校及び高等学校との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校での年間2回の授業参観 ・高等学校での年間1回の授業参観 ・高等学校教員、中学校教員とのT-T <p>◇外国語教育担当教員の位置付け（加配教員）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国の中央研修への推進リーダーの参加と成果普及 <p>◇先進校視察</p> <p>◇研究成果の発信・普及・検証</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県事業における公開授業及び県連絡協議会 ・県事業における研修等の講師
	三年次	<p>【平成28年度】</p> <p>○第1学年 外国語活動 年間35時間＜自主教材＞</p> <p>○第2学年 外国語活動 年間35時間＜使用教材“Hi, friends!!1”及び自主教材＞</p> <p>○第3学年 英語科 年間35時間＜使用教材“Hi, friends!!1”及び自主教材＞</p> <p>○第4学年 英語科 年間70時間＜使用教材“Hi, friends!!2”及び自主教材＞</p> <p>○第5・6学年 英語科 年間70時間＜使用教材 Hi, friends!!2”及び文部科学省 H26年度配付予定の補助教材＞</p> <p>◆<u>検証した二年次の研究の成果と課題を踏まえて、実践内容を改善する。</u></p> <p>◆<u>中学校への接続における効果的な指導について研究する。</u></p> <p>《例》小中連携の指導体制の工夫等</p> <p>◆<u>発達段階に応じた「読むこと・書くこと」の指導の系統について研究する。</u></p> <p>《例》発達段階と学習経験を踏まえた「読む・書く」指導の開始時期と指導内容の系統表を作成する。（アルファベットの認識、大文字小文字の導入から小学校段階での指導について）</p> <p>◆<u>児童の発達段階や意欲を高める学習評価の在り方について研究する。</u></p> <p>《例》児童生徒の意欲を高める評価ポートフォリオの作成。</p> <p>◇強化地域内の中学校及び高等学校との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校での年間2回の授業参観 ・高等学校での年間1回の授業参観 ・高等学校教員、中学校教員とのT-T <p>◇外国語教育担当教員の位置付け（加配教員）</p> <p>◇先進校視察</p> <p>◇研究成果の発信・普及・検証</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県事業における公開授業及び県連絡協議会 ・県事業における研修等の講師
	四年次	<p>【平成29年度】</p> <p>○第1学年 外国語活動 年間35時間＜自主教材＞</p> <p>○第2学年 外国語活動 年間35時間＜使用教材“Hi, friends!!1”及び自主教材＞</p> <p>○第3学年 英語科 年間35時間＜使用教材“Hi, friends!!1”及び自主教材＞</p> <p>○第4学年 英語科 年間70時間＜使用教材“Hi, friends!!2”及び自主教材＞</p> <p>○第5・6学年 英語科 年間70時間＜使用教材 Hi, friends!!2”及び文部科学省 H26年度配付予定の補助教材＞</p> <p>◆<u>検証した三年次の研究の成果と課題を踏まえ、これまでの研究成果と課題をまとめる。</u></p> <p>◆<u>中学校への効果的な接続期の指導について研究する。</u></p> <p>◆<u>児童の発達段階や意欲を高める学習評価の在り方について研究する。</u>（第3年次に引き続き）</p>

	四年次	<p>◇強化地域内の中学校及び高等学校との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校での年間2回の授業参観 ・高等学校での年間1回の授業参観 ・高等学校教員、中学校教員との T-T <p>◇外国語教育担当教員の位置付け（加配教員）</p> <p>◇研究成果の発信・普及・検証</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県事業における公開授業及び県連絡協議会 ・県事業における研修等の講師
	一年次	<p>【平成26年度】</p> <p>◆効果的な小中連携を図るための組織を構築する。</p> <p>◆<u>CAN-DO リスト形式の学習到達目標を設定し、4技能別の到達目標の見直しを行う。</u></p> <p>◆「<u>使える英語</u>」を目的とした単元ゴール設定の見直しを行う。</p> <p>《例》場面設定や既習事項のスパイラルな活用を考えたゴールの工夫</p> <p>◇強化地域内の小学校及び高等学校との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校での年間2回の授業参観及び T-T ・高等学校での年間1回の授業参観 ・高等学校教員との T-T <p>◇県事業コア・ティーチャー育成プログラム受講</p> <p>◇先進校視察</p> <p>◇研究成果の発信・普及・検証</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県事業における公開授業及び県連絡協議会
中学校	二年次	<p>【平成27年度】</p> <p>◆小学校から高等学校までの接続を考えた CAN-DO リストの作成（小中は作成済）</p> <p>◆CAN-DO リストを基に、生徒の到達度をチェックする方法を改善する。</p> <p>◆検証した一年次の研究の成果と課題を踏まえて、実践内容を改善する。</p> <p>◆<u>小学校のカリキュラムとの円滑な接続を目指した小6ー中1の接続プログラムの作成を行う。</u></p> <p>◆<u>授業を英語で行うことを前提とし、かつ生徒による言語活動を中心にした授業を行うための指導方法の改善研究を行う。</u></p> <p>《例》意見や気持ちを伝え合い、さらに内容に深まりのある言語活動を行うための単元計画の工夫。指導力の向上。評価方法の改善。</p> <p>◇強化地域内の小学校及び高等学校との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校での年間2回の授業参観及び T-T ・高等学校での年間1回の授業参観 ・高等学校教員との T-T <p>◇先進校視察</p> <p>◇研究成果の発信・普及・検証</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県事業における公開授業及び県連絡協議会
	三年次	<p>【平成28年度】</p> <p>◆検証した二年次の研究の成果と課題を踏まえて、実践内容を改善する。</p> <p>◆<u>高等学校との滑らかな接続を考慮したプログラムを作成する。</u></p> <p>《例》授業を英語で行うことや、より実践的・オーセンティックな言語活動の導入。</p> <p>◇強化地域内の小学校及び高等学校との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校での年間2回の授業参観及び T-T ・高等学校での年間1回の授業参観 ・高等学校教員との T-T <p>◇先進校視察</p> <p>◇研究成果の発信・普及・検証</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県事業における公開授業及び県連絡協議会

<p style="text-align: center;">中学校</p>	<p style="text-align: center;">四年次</p>	<p>【平成29年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 検証した三年次の研究の成果と課題を踏まえた研究成果と課題をまとめる。 ◆ <u>小・中・高等学校との連続性・系統性を持ったカリキュラムの作成</u> ◆ <u>高等学校との接続プログラムを運用する。(第三年次作成)</u> <p>◇ 強化地域内の小学校及び高等学校との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校での年間2回の授業参観及び T-T ・ 高等学校での年間1回の授業参観 ・ 高等学校教員との T-T <p>◇ 先進校視察</p> <p>◇ 研究成果の発信・普及・検証</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 県事業における公開授業及び県連絡協議会
	<p style="text-align: center;">一年次</p>	<p>【平成26年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 円滑な小中高接続を目指したCAN-DOリスト形式での学習到達目標の研究 小中高で一貫性のある英語の学習到達目標の設定についての研究を行う。 ◆ 教科書の単元構想の研究 学習到達目標に照らし合わせて、教科書の各単元を、①各単元の目標設定、②言語活動、③評価方法という3つの観点で再教材化する方法についての研究を行う。 <p>◇ 強化地域内の小中学校との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校の授業参観及び TT・研究協議への参加 (年間2回) ・ 中学校の授業参観及び TT・研究協議への参加 (年間2回) ・ 高等学校で研究授業の実施 (年間1回) <p>◇ 研究成果の発信・普及</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 研究授業及び研究発表会「まなび21フォーラム」
<p style="text-align: center;">高等学校</p>	<p style="text-align: center;">二年次</p>	<p>【平成27年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 円滑な小中高接続を目指したCAN-DOリスト形式での学習到達目標の研究 ◆ 教科書の単元構想の研究 <ul style="list-style-type: none"> ・ 目標、指導、評価に一貫性を持たせるよう研究を行う。 ・ 4技能を統合した活動について研究を行う。 ・ オーセンティックな場面設定とそれを活かした言語活動について研究を行う。 ・ パフォーマンステストを活用した適切な観点別評価について研究を行う。 <p>◇ 強化地域内の小中学校との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校の授業参観及び TT・研究協議への参加 (年間1回) ・ 中学校の授業参観及び TT・研究協議への参加 (年間1回) ・ 高等学校で研究授業の実施 (年間1回) <p>◇ 研究成果の発信・普及</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 研究授業及び研究発表会「まなび21フォーラム」
	<p style="text-align: center;">三年次</p>	<p>【平成28年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 円滑な小中高接続を目指したCAN-DOリスト形式での学習到達目標の研究 ◆ 教科書の単元構想の研究 <ul style="list-style-type: none"> ・ 目標、指導、評価に一貫性を持たせるよう研究を行う。 ・ 4技能を統合した活動について研究を行う。 ・ オーセンティックな場面設定とそれを活かした言語活動について研究を行う。 ・ パフォーマンステストを活用した適切な観点別評価について研究を行う。 <p>◇ 強化地域内の小中学校との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校の授業参観及び TT・研究協議への参加 (年間1回) ・ 中学校の授業参観及び TT・研究協議への参加 (年間1回) ・ 高等学校で研究授業の実施 (年間1回) <p>◇ 研究成果の発信・普及</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 研究授業及び研究発表会「まなび21フォーラム」

四年次	<p>【平成29年度】</p> <p>◆円滑な小中高接続を目指したCAN-DOリスト形式での学習到達目標の研究</p> <p>◆教科書の単元構想の研究</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標、指導、評価に一貫性を持たせるよう研究を行う。 ・4技能を統合した活動について研究を行う。 ・オーセンティックな場面設定とそれを活かした言語活動について研究を行う。 ・パフォーマンステストを活用した適切な観点別評価について研究を行う。 <p>◇強化地域内の小中学校との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校の授業参観及びTT・研究協議への参加（年間1回） ・中学校の授業参観及びTT・研究協議への参加（年間1回） ・高等学校で研究授業の実施（年間1回） <p>◇研究成果の発信・普及</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究授業及び研究発表会「まなび21フォーラム」
-----	---

○平成27年度の進捗状況・課題

【進捗状況】

日章小・大湊小

◆CAN-DO リスト（小中高）の作成に向けて

小学校から高等学校までの接続を考えた CAN-DO リストの作成に向けて、小中高の英語担当者会を複数回持つことができた。その中で、評価のためのテスト（パフォーマンステストの評価規準を含む）の在り方についても検討することができた。

◆児童の発達段階に即し、コミュニケーション能力や意欲を高める学習評価の在り方

●単元計画（指導計画・評価計画）の作成

CAN-DO リストを基に、児童の発達段階に即し、コミュニケーション能力や意欲を高める学習評価の在り方について実践研究するために、目標を達成させるための評価規準や評価方法を含む単元計画を作成した。その際、学級担任と英語担当が相談しながら、児童が興味を持ち、意欲的に取り組むことのできるような「単元末の課題」を考え、バックワードデザインで単元計画及び授業を設計していった。

<作成にあたって留意している点>

- ・単元前半：十分な「聞き慣れ」「言い慣れ」のための楽しく、必然性のあるゲームや活動の工夫
- ・単元末：達成感（「わかる」「できる」「またやりたい」「もっとやりたい」という気持ち）を味わわせる工夫
- ・コミュニケーションの必然性（相手意識、目的、場面）
- ・コミュニケーションへの意欲（「聞きたい」「言いたい」と思わせる工夫）
- ・他教科との関連
- ・競争ではなく協働（「コミュニケーションの楽しさ」）

●意欲を高める評価を目指して

CAN-DO リストを基に、児童の到達度をチェックする方法を改善するために、毎時間の目標（目当て・課題）を明確にし、目当て・課題に関して「振り返り」(Reflection)を毎時間行うことを心がけた。児童が、「今の自分ができること」と授業の中で「自分や友だちが頑張ったこと」を確認し、喜びや達成感を共有することを通して、次時の学習への意欲付けとなるようにした。

また、単元の目標を明確にした上でパフォーマンステストの評価規準を設定した。パフォーマンステストの際には、評価の観点に基づき「良い点をほめること」で、児童は間違いを恐れず、自信を持ってパフォーマンスできるようになってきた。パフォーマンステスト実施後は、「単元の振り返り」(Reflection)を書かせ、それに対して「赤ペン」で形成的評価を書き込み返すことで、児童のさらなる学習意欲につながっている。特に大湊小では、少人数を生かして、

コンサルテーションの手法を用いた評価ができています。

「聞くこと」の評価については、単元末に10～15分程度の短時間のリスニングクイズ(テスト)を、学期末に実施した。

●指導と評価の一体化

評価を行うことにより、児童の到達度を測ると同時に、指導の成果と課題を検証し、授業改善に生かすことができた。

◆語彙・表現・コミュニケーションストラテジーのシラバスを作成

一年次の研究の成果と課題を踏まえて、カリキュラムを改善するために、小学校の各学年で何をどのくらい指導するのかについて、語彙、表現、コミュニケーションストラテジーの視点でシラバスを作成した。これによって、学級担任や中学校 JTE が、見通しを持って指導することができている。(資料1参照)

◆指導方法の工夫

●指導体制

【学級担任主導】

児童の実態をよく知っている担任が中心になり、計画を作成し、実践する。児童との信頼関係がある担任が行うことで、児童に安心感を与えると同時に、他教科・領域との関連がより図れるようになった。

【小学校英語担当 (JTE)】

小学校全学年の授業に T3 として参加することで、学年間の連携が図られ、系統性を持ったカリキュラム編成や指導につながっている。同時に、担任一人ひとりに寄り添い、指導方法やクラスルームイングリッシュの使用の仕方などについて、場面に即した支援ができています。また、小小連携、小中連携もスムーズに図れるようになった。学級担任と教材、学級担任と ALT/外国語支援員、日章小と大湊小、小学校と中学校などをつなぎ、継続可能な指導体制を作る役割を果たしている。

【ALT/外国語支援員 (JALT)】

ALT/外国語支援員 (JALT) は、T2 として授業を行う他、単元計画の作成・教材の開発に参画し、児童のより実践的な英語力の育成に貢献している。

●教材・教具

【タブレット端末】

児童一人ひとりが、i-Pad を使用し、パワーポイント等でプレゼンテーション資料を作ったり、映像を撮影して使用したりしている。

<例1：6年 旅行代理店での旅行案内>

i-Pad を利用して、一人ひとりがその国の観光スポットを紹介する「プレゼン資料」を作成し、それを見せながら旅行代理店の店員になりきって旅行案内を行った。

<例2：6年 レポーターになろう>

i-Pad を利用し、休み時間などに学校で起こっている出来事取材し、レポーターとして映像を見せながら、レポートした。

【絵カード/ミニカード】

市販の絵カード作成ソフトや「Hi, friends!」を利用して、絵カードを作成する他、学校独自の絵カードも作成している。教師提示用カードの他に、児童一人ひとりが手元で使用できるカルタサイズのミニカードも利用している。継続的に活用させたい「アルファベットカード」などは、個々に持たせて家庭学習などでも活用している。

【ICT教材】

文部科学省から配布されている「Hi, friends!」や「Hi, friends! Plus」のデジタル教材に加えて、ミュージックビデオやビデオレター、スライド教材などを活用している。

<例1：高等学校教員との T-T 授業で>

高校生が英語で学校案内をしているビデオを見せて授業の導入とした。

<例 2：将来の夢>

高校生や中学生が将来の夢を英語で語っているビデオを見せて授業の導入とした。

<例 3：歌の意味の導入>

歌の内容を絵と文字で示すスライドで作成し、ゆっくりと歌いながら導入している。

児童は少し難しい表現も何と無く理解し、歌を通してその表現を学んでいる。

【ワークシート】

活動のねらいや児童の実態にあわせてワークシートを作成し、活用している。活動の手助けとなるもの、語彙の定着をねらうもの、ピクチャーディクショナリーのように使用できるものなど用途にあわせて工夫している。

◆**「読むこと・書くこと」の系統的指導**

発達段階に応じた「読むこと・書くこと」の指導の系統について研究している。発達段階と学習経験を踏まえた「読む・書く」指導の開始時期と指導内容の系統表を作成し、実践している。その際、LEEP（英語教育推進リーダー中央研修）で研修した指導方法を実践し、担任に広めることができた。

<読むこと・書くこと>の系統表>

1・2年	・歌やゲームで大文字に親しむ
3年	・アルファベットの大文字・小文字を識別する⇒帯で「歌、カード並べ」
4年	・アルファベットの各文字には音があることを知り、音をつないで身近な単語を読む。「子音+母音+子音」の単語（cat, dog など） ⇒フォニックスの基礎（C, ccc classroom） ・音と文字を一致させながら文字を書く。
5年	・身近な単語を読んだり試写したりする。 ⇒「絵+文字」の絵カードを使って、その単元で必要な単語をフォニックスチャンツで導入 ⇒段階的に「文字だけ」で読むことにチャレンジさせる。 ・「模擬リーディング」をする。 ⇒単元末に、その単元で学習した表現や単語で構成された「リーディング教材」を読む。
6年	・アルファベットを四線上に書くことができる。 ・聞いたことのある単語であればほぼ読める、推測しながら未知の単語を読むことができる。 ・eで終わる単語の読み方（bike, tube など） ・フレームとして与えられたものに、単語を選んで文章を書くことができる。 （I like _____ ./ I play _____ など）

◆**学級担任の英語指導力向上のための研修の充実**

●**年度当初（始業式前）の研修**

年度当初（始業式前）に両小学校教員が集まり、英語実践研究に向けての共通理解を図った。高知県教育委員会より指導主事を招き、現在の小学校を中心とする英語教育の動向や「英語教育強化地域拠点事業」について講演いただき、目指す方向性を確認した。英語担当から CAN-DO リスト、年間計画、単元計画（原案）、英語授業【スタンダード】、クラスルームイングリッシュ・マニュアル等を配布し、活用できるよう研修を行った。

⇒授業スタイルの【スタンダード】の確立

授業スタイルの【スタンダード】を作成し、黒板の左端に「授業の流れ」を全学年共通で提示するようにした。児童も担任も見通しを持って授業ができるようになった。（資料2参照）

⇒「クラスルームイングリッシュ（教室英語）・マニュアル」による実践

全教員に「クラスルームイングリッシュ・マニュアル」を配布し、授業の中で使えるようにすることを課題とした。最初は抵抗がある担任もいたが、少しずつ英語の使用量が増えていった。授業の中で英語を用いることが、担任にとっては最も効果的な研修となった。同じような「クラス

ルームイングリッシュ（教室英語）」を用いることができるようになったことで、新年度に担任が変わっても、抵抗なく児童は理解できるものと期待している。（資料3参照）

●夏季休業中の研修・・・先進校の実践に学ぶ

夏季休業中に、鳴門市教育委員会より指導主事を招き、ワークショップ形式で研修会を実施した。素晴らしい実践を積み重ねてきており、「担任としての良きモデル」である指導主事との出会いが、多くの担任の「やる気」に火を付けた。

●公開授業、授業研究の充実

各学校、学期に1回以上公開授業を行い、授業改善のための研究協議の充実を図っている。（資料6参照）

◇先進校視察

●先進校視察研修と研修後の校内報告会

「鳴門市立林崎小学校の研究発表会」を視察し、校内で「報告会」を実施した。モデルとなる授業をじかに見ることで、自校の実践に足りないものを全員で確認した。『担任の力で、英語授業に魂（心）を吹き込むこと』『担任だからこそできる、学級の児童一人ひとりを大切にしたい温かい心の通う英語授業を創造すること』を全教員で確認した。また、小1から中3まで、小中の教員が同じベクトルで同じ目標に向かって進んでいる点を見習うべきだと確認した。

◇強化地域内の中学校及び高等学校との連携

中学校での年間3回の授業参観、高等学校での年間1回の授業参観を実施した。互いの授業を見合うことで、学校間のつながりの重要性を再確認し、情報交換の回数を増やすことを話し合った。高等学校教員とのT-Tを行った後の情報交換では、小中高の児童生徒の発達段階によって指導方法は異なるが、コミュニケーションの態度など小学校で培ったものが、良い形で引き継がれるよう系統的で一貫性のある指導がなされるべきであること、そのためには、CAN-DOリストは4技能のみについてだけでなく、コミュニケーションの態度やストラテジーなどの細部にわたってもあってもいいのではないかという意見が出された。また、中学校教員とのT-Tによる交流授業も実施した。

◇外国語教育担当教員の位置付け（加配教員）

外国語教育担当教員はLEEP（英語教育推進リーダー中央研修）に参加し、研修内容を担任とともに実践している。

◇研究成果の発信・普及・検証

公開授業や県連絡協議会などで、研究の経過報告を行った。また、「高知県ALT指導力向上研修」等における研修の講師を務め、本地域の取組を紹介した。
※検証については、1月に実施する児童英語検定の結果等も踏まえて、行う予定である。

香南中

◆CAN-DOリスト（小中高）の作成に向けて

小学校から高等学校までの接続を考えたCAN-DOリストの作成に向けて、小中高の英語担当者会を複数回持つことができた。その中で、評価のためのテスト（パフォーマンステストの評価規準を含む）の在り方についても検討することができた。

◆CAN-DOリストを基に、生徒の到達度をチェックする方法を改善

CAN-DOリストを基に、生徒の到達度をチェックする方法を改善するために、毎時間の目標（目当て・課題）を明確にした「振り返り」(Reflection)を毎時間行うことを心がけた。また、単元の目標を明確にしてパフォーマンステストの評価規準を設定した。

パフォーマンステストは、毎時間の初めに「帯」として取り組み、「聞くこと」「書くこと」につなげることで、英語活用の場面設定が容易となり、生徒に継続的な言語活用をさせることができた。パフォーマンス後には、評価の観点に基づき「良い点を生徒相互が英語でほめあうこと」で、生徒は間違いを恐れず、自信を持ってパフォーマンスできるようになってきた。

また、パフォーマンステスト実施後、生徒に「振り返り」(Reflection)を書かせ、さらにそれに対して「赤ペン」で形成的評価を入れることで、生徒のさらなる学習意欲につながった。

生徒一人ひとりの到達度を見取るために、「CAN-DO形式の自己評価表」や「教科における通知表の補助簿」を作成し、生徒一人ひとりが自己の到達度を確認し、振り返ることで英語学習へのさらなる意欲付けにつながった。

◆指導方法の工夫・改善

授業を英語で行うことを前提とし、かつ生徒による言語活動を中心にした授業を行うための指導方法の改善研究を行っている。

●「使える英語」を目的とした単元ゴール設定の見直し

年間計画を見直す際に、単元で付けたい力を明確にし、単元ゴールとなる言語活動を設定し、その単元で学習した表現や既習の表現を活用できる場面を単元末に設けることにした。その単元ゴールに向けてスパイラルに学習や活動が積み上げられるように単元の構成を工夫した。各単元の活動を発展させたり、いくつかの単元を統合的に扱って活動させたりしたい場合は「Unit10 Plus」などとして、新しく単元を立ち上げて扱った。

●各単元をつなげる統合的な言語活動

今年度は、単元での学習が一過性のものとならないように、単元末の活動を、次の単元で毎時間の初めに「帯」として取り組み、他の生徒の「聞くこと」「書くこと」につなげることで、継続的で統合的な言語活動を仕組むことができた。

<例> スピーチ⇒リスニング⇒レポートしてスピーキング⇒ライティング

●様々な言語活動の手法を取り入れ、「技能育成」を中心に据えた授業構成に

Picture Describing, retelling, show and tell, Debating, ABCD Format (秋田県の取組)などの手法を取り入れつつ、必ず「書く」活動や「読む」活動につなげることで、課題である「読むこと」「書くこと」の技能の向上に努めた。

◆小学校のカリキュラムとの円滑な接続を目指した小6-中1の接続プログラム

新カリキュラムの下、英語力(特に聞く・話す力)を身に付けた生徒が入学してくることを見据えて、中学校1年生での「スタートアップカリキュラム」を編成し、実践した。

また、小学校での指導を踏まえた中1入門期の音と文字を結びつける指導や「読むこと」「書くこと」を小学校から継続・系統的に指導できるように工夫した。(資料4参照)

◇強化地域内の小学校及び高等学校との連携

- ・各小学校での年間3回の授業参観を行っている。T-Tについては、交流学习で1回実施したが、3学期にもう1回実施を予定している。
- ・高等学校教員とのT-Tで授業を実施した技能育成型の授業実践に向けて、共通理解を図ることができた。また、教育課程や指導方法についてはお互いに理解し合ったが、評価の在り方については手付かずのままであることが議題にあがり、次回の担当者会で検討することを確認し合った。
- ・高等学校での年間1回の授業参観及び授業後の協議を行った。中高のつながりの重要性和評価について、定期テストの問題やパフォーマンステストの評価表を持ち寄って話し合うことで、改善点を検討することができた。

◇先進校視察

広島市立井口中学校の授業を参観し、4技能を統合的に活用した授業実践について学んだ。「分

かっている・知っている」知識レベルから「できる・使える」レベルへとどのように導くか、中1から平素の授業で行われている「英語のトレーニング」を学んだ。生徒の発話量の多さ、授業の組立てなど今後の指導に活かせる多くのヒントをいただいた。

◇研究成果の発信・普及・検証

公開授業や県連絡協議会で、研究の経過報告を行った。南国市英語教育研究会（外国語活動・外国語部会）で、研究成果を発表し、ワークショップの中で活動のアイデアを紹介した。

※検証については、1月実施予定の高知県学力定着状況調査、英検等の結果を基に行う予定である。

【課題】

日章小・大湊小

① 『学級担任の力で、英語授業に魂（心）を吹き込むこと』

主体的に英語教育に取り組み、他教科・領域との関連を図りつつ、『学級担任だからこそできる、学級の児童一人ひとりを大切にしたい温かい心の通う英語授業を創造すること』ができる担任も多くなってきた。そういう教員を一人でも多く育成できる体制や教員一人ひとりが主体的に学べる仕組み作りが必要である。研究の主体が学級担任になるような組織づくりが来年度は必要である。

② ALT との打合せ

ALT との打合せに不安感がある HRT も多い。打合せに必要な表現のマニュアルと「年間計画」「単元計画」の英語バージョンがあると打合せのときに役立つ。来年度にかけて英語バージョンの作成に取り掛かりたい。外国語教育担当教員がいなくなっても機能する体制を作ることが課題である。

③ 段階的な即興性のある活動

単元末のコミュニケーション活動は、コミュニケーションの必然性があり、オーセンティックな場面設定になってきている。語彙と表現も児童の実態にあったものになってきた。しかし、表現や語彙を覚えて活動するだけで終わってしまうときがあるので、少しずつ無理のない設定で、即興性のある活動を仕組んでいく必要がある。

④ 教材の共有化

それぞれの担任が児童に合わせて作成した教材や英語担当が導入した教材などを地域の中で共有できるよう、香南中ブロックのサーバーに、「教材フォルダ」を作成する必要がある。

⑤ 児童の主体的な学習

児童の主体的な学習（アクティブラーニング）を目指すためにも、児童が「もっと言いたい」「伝えたい」と思う仕掛けを研究する必要がある。そのためには、さらなる「場面設定の工夫」が必要である。

⑥ 評価の在り方(具体)

英語科におけるパフォーマンステストにおいて、評価の観点や規準をより明確にするために研究を深める必要がある。「コミュニケーションの素地や基礎」を育成すべき小学校段階で正確性をどの程度求めるのか、評価に関する方向性を定め、「到達を見取る視点」のスタンダードを作成することが求められる。

小学校段階では、「コミュニケーションを図ろうとする意欲・関心・態度」をまず大事にし、自分のもてる限りの英語力でコミュニケーションを図ろうとすることが大切ではないかと考える。「文法的には正しくなくても、ジェスチャーや知っている限りの英単語などを駆使して、たくさん話して伝えようとしている児童」を育てるために、どのような評価規準が必要なのかを明確にする必要がある。

香南中

① 即興性のある活動・・・単元末の課題の工夫

小学校の英語教育を踏まえた「中1スタートアッププログラム」によって中1の良いスタートがきれており、高等学校へつながるようなディベートやディスカッションにも取り組み始めたが、深まりのある、より実践的な即興性のある活動になるようにステップアップを図ることが課題である。小学校で何をどのくらい学習しているかを中学校の英語担当が理解するためにも、場面別の系統表（小1～中3）を作成する必要がある。

さらに、思考力・判断力を必要とする深まりのある表現力を育成するためにも、一層の単元末の課題の工夫が必要である。

<例>

これまで：「修学旅行はどこに行きたいですか。理由を付けて5文で表現しなさい」

工夫のある課題：「歴史を勉強するために修学旅行に行くことになりました。どこがいいでしょう。（北海道・東京・京都）いずれかから選び、理由を付けて5文以上で表現しなさい。」

② 家庭学習の習慣化

基礎基本の定着のために家庭学習の習慣化が急務である。効果的な家庭学習のさせ方・家庭学習と授業との関連を図ることも必要であるが、自律的な学習者を育てるためにどのような方法ができるかを研究していく必要がある。

また、英語での表現力（話す・書く）を高めるために、“Say it in English”の課題として「私にはかなづちです」「食わず嫌い」など直訳すると通じない日本語の意味をよく考えて、自分の持っている英語の力で、表現しなければならない課題などを工夫したい。

さらに、「読む・聞く」力を高めるために、今まで以上に音読の宿題を徹底し、「子ども英字新聞」の効果的な活用も図っていききたい。

③ 「読む」「書く」力をさらに高めるために

技能育成をベースにした授業改革は進んできたので、「聞く力」・「話す力」は着実に伸びてきている。「読むこと」・「書くこと」についても向上が見られるが、「正確に書く」ために必要な語彙力など基礎・基本が十分に定着していない生徒への対応が必要である。そのためには、家庭学習の習慣化が不可欠である。

また、正ペアやグループでお互いの書いた英文をチェックし合ったり、「まちがいさがしの課題」を出したりする活動を通して「正確性」を高めていきたい。

④ 支援の必要な生徒への対応

「書くこと」に対して支援が必要な生徒に対しては、大学や関連機関と連携を図りながら適切な支援の方法を模索する必要がある。

その一つとして、「フラッシュ（メモリー）カード」が効果的であるという指導主事からのアドバイスを参考にして、支援を試みていく予定である。

○平成27年度の進捗状況・課題（●課題）

高知西高等学校

◆ 円滑な小中高接続を目指したCAN-DOリスト形式での学習到達目標の研究

・異校種の学習到達目標について、理解する機会をもてなかったという昨年度の反省を踏まえ、8月に南国市の小中学校のCAN-DOリスト研究の会に参加し検討した。高知西高校は本年度よりSGHの指定を受けている。また新しく開校される県立中等高等学校においては国際バカロレアコース設置に向けて準備を進めているところであるが、これらのことを考えたとき、県内唯一の英語科を持つ学校として、特に英語教育に関して担っている役目は大きいと考える。現在よりも高いゴール設定をして取り組んでいくことが求められており、現在その

詳細のカリキュラム作りをしているところである。そのため、CAN-DOリストの作成も容易ではなかった。汎用性のあるものにするため、他地域で異なる課題を抱える岡豊高校にも参加していただき意見交換できたことは非常に有難かった。3つの校種が揃ったことで、そのギャップの大きさや互いの指導法、理想とする英語ユーザー像等をより一層具体的にイメージすることができた。CAN-DOリスト作成は困難を極めたものの、非常に意義深い検討会となった。

- ・今後も継続して検討会を持つ必要があるが、実際の授業者としての経験の有無が大きく影響する。校種間交流の機会を増やす工夫をしていきたい。

◆教科書の単元構想の研究

- ・4技能を統合した活動、オーセンティックな場面設定とそれを活かした言語活動、パフォーマンステストに関して3年間で段階的に指導を重ねていけるよう計画している。今後は、CAN-DOリストとの関連、外部試験との関連なども整理しながら指導していく必要がある。

◇強化地域内の小中学校との連携

- ・小学校の授業参観・研究協議への参加（年間2回）
- ・中学校の授業参観・研究協議への参加（年間2回）
- ・高等学校で研究授業の実施（年間1回）
- ・小中高でのCAN-DOリスト検討会（1月現在では1回）
- ・小中での授業では、高校生や留学生による英語での高校紹介DVDを作成。その際、既習事項やねらいの共有など事前に行うことで異校種での授業を具体的にイメージすることができた。会議の場ではなく、このような場面での意見交換が互いの理解を深めることにつながりやすい。
- ・事後には、小学校の児童と高校教員、ALTとの間で英語又は日本語での手紙のやり取りなども行われた。これまでに小中学校訪問を経験していない高校教員、ALTも3学期の試験期間中などを活用して訪問することを希望している。

◇研究成果の発信・普及

- ・研究授業及び研究発表会「まなび21フォーラム」

(6) 評価計画 ※平成27年度新規採択件については、第一年次から第三年次まで記載すること。

○第一年次～第四年次、校種別

小
学
校

【一年次】研究の方向性、計画などから評価を行う。

- ・年に2回（6月、12月）、児童・教職員を対象に意識調査を実施し、情意面、英語の力について、研究の成果・課題を把握し、研究の方向の妥当性を検討する。
- ・小5・6を対象に児童英検を実施し（1月）、研究の成果を検証する。

【二年次】教育課程から評価する。

- ・年に2回（6月、12月）、児童・教職員・保護者を対象に意識調査を実施し、情意面、英語の力について、研究の成果・課題を把握し、研究の方向の妥当性を検討する。
- ・小5・6を対象に児童英検を実施し（1月）、研究の成果を検証する。
- ・研究の内容を教育課程から検証・考察する。

【三年次】教育課程から評価する。

- ・年に2回（6月、12月）、児童・教職員・保護者を対象に意識調査を実施し、情意面、英語の力について、研究の成果・課題を把握し、研究の方向の妥当性を検討する。
- ・小5・6を対象に児童英検を実施し（1月）、研究の成果を検証する。
- ・研究の内容を教育課程から検証・考察する。

【四年次】児童の変容から成果や課題を評価する。

- ・年に2回（6月、12月）、児童・教職員・保護者を対象に意識調査を実施し、情意面、英語の力について、これまでの研究の成果と課題を考察する。
- ・小5・6を対象に児童英検を実施し（1月）、研究の成果と課題を考察する。
- ・研究の経過の記録や客観的な分析により、研究そのものについて評価する。

中学校

【一年次】研究の方向性、計画などから評価を行う。

- ・年に2回（6月、12月）、生徒・教職員を対象に意識調査を実施し、情意面、英語の力について、研究の成果・課題を把握し、研究の方向の妥当性を検討する。
- ・高知県学力定着状況調査（1月）、標準学力調査等（4月）、英検の結果から分析し、学力状況を把握し、研究の方向の妥当性を検討する。

【二年次】教育課程から評価する。

- ・年に2回（6月、12月）、生徒・教職員を対象に意識調査を実施し、情意面、英語の力について、研究の成果・課題を把握し、研究の方向の妥当性を検討する。
- ・高知県学力定着状況調査（1月）、標準学力調査等（4月）、英検の結果から分析し、学力状況を把握し、研究の方向の妥当性を検討する。
- ・研究の内容を教育課程から検証・考察する。

【三年次】教育課程から評価する。

- ・年に2回（6月、12月）、生徒・教職員を対象に意識調査を実施し、情意面、英語の力について、研究の成果・課題を把握し、研究の方向の妥当性を検討する。
- ・高知県学力定着状況調査（1月）、標準学力調査等（4月）、英検の結果から分析し、学力状況を把握し、研究の方向の妥当性を検討する。
- ・研究の内容を教育課程から検証・考察する。

【四年次】生徒の変容から成果や課題を評価する。

- ・年に2回（6月、12月）、生徒・教職員を対象に意識調査を実施し、情意面、英語の力について、研究の成果・課題を把握し、研究の方向の妥当性を検討する。
- ・高知県学力定着状況調査（1月）、標準学力調査等（4月）、英検の結果から分析し、学力状況を把握し、研究の方向の妥当性を検討する。
- ・研究の経過の記録や客観的な分析により、研究そのものについて評価する。

高等学校

【一年次】研究の方向性、計画などから評価する。

- ・年に2回（4月、2月）、生徒・教員対象のアンケート調査を実施し、情意面、指導体制などについて、研究の成果・課題を把握し、研究の方向性の妥当性を検討する。
- ・学力定着把握検査（4月、9月）の結果を分析し、学力状況を把握し、研究の妥当性を検討する。
- ・英語検定の取得率により、外部指標による生徒の英語力の定着状況を把握する。

【二年次】学習到達目標から評価する。

- ・年に2回（4月、2月）、生徒・教員対象のアンケート調査を実施し、情意面、指導体制などについて、研究の成果・課題を把握し、研究の方向性の妥当性を検討する。
- ・学力定着把握検査（4月、9月）の結果を分析し、学力状況を把握し、研究の妥当性を検討する。
- ・英語検定の取得率により、外部指標による生徒の英語力の定着状況を把握する。

【三年次】学習到達目標から評価する。

- ・年に2回（4月、2月）、生徒・教員対象のアンケート調査を実施し、情意面、指導体制などについて、研究の成果・課題を把握し、研究の方向性の妥当性を検討する。
- ・学力定着把握検査（4月、9月）の結果を分析し、学力状況を把握し、研究の妥当性を検討する。
- ・英語検定の取得率により、外部指標による生徒の英語力の定着状況を把握する。

【四年次】生徒の変容から評価する。

- ・年に2回（4月、2月）、生徒・教員対象のアンケート調査を実施し、情意面、指導体制などについて、研究の成果・課題を把握し、研究の方向性の妥当性を検討する。
- ・学力定着把握検査（4月、9月）の結果を分析し、学力状況を把握し、研究の妥当性を検討する。
- ・英語検定の取得率により、外部指標による生徒の英語力の定着状況を把握する。

○平成27年度の進捗状況・課題

【進捗状況】

日章小・大湊小

1 教育課程について

小学校1～2年生「英語活動」(年間35時間)

○目標

身近な日常生活や学校生活に関わる体験的な外国語活動を通して、日本と世界の言語や文化の違いに気付き、身近で基本的な表現に慣れ親しみながら、友だちと積極的に関わろうとする態度を育成する。

○内容・特徴

小1 (35時間)	友だちやALT/英語支援員と関わりながら、体験的に英語の音声や表現に慣れ親しんでいく。(Total Physical Response) ★歌やゲームでアルファベットの大文字に親しむ。
小2 (35時間)	小1から慣れ親しんできた音声や表現などを使って、簡単な表現でコミュニケーションがとれるようになる。 ★歌やゲームで大文字に親しむ。

○評価の観点及び趣旨

観点	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語への慣れ親しみ	言語や文化に関する気付き
趣旨	コミュニケーションに関心を持ち、積極的にコミュニケーションを図ろうとする	活動で用いた外国語を聞いたり話したりしながら、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しんでいる。	外国語を用いた体験的なコミュニケーション活動を通して、言葉のおもしろさや豊かさ、多様なもの見方考え方があることなどに気付いている。

○各単元の評価規準の例(目標を児童の具体的な姿であらわしたもの)

<1年生:【1】あいさつ、色と数字であそぼう>

観点	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語への慣れ親しみ	言語や文化に関する気付き
評価規準	積極的に挨拶をしたり、天気/色/数を英語で言っている。	英語での挨拶や天気/色/数の言い方に慣れ親しんでいる。	英語と日本語の違いに気付いている。
評価方法	○「振り返りシート」 ○行動観察	○行動観察	○「振り返りシート」 ○行動観察

※行動観察については⇒「評価シート(観察記録シート)」を活用する。

○評価のフィードバックの方法

児童自身が自分の到達度を見取ることができるようなCAN-DOリスト形式の「自己チェックシート」で、「評価規準」を基にその単元の到達度について自己評価させ、コンサルテーションなどにより、児童自身にフィードバックし、さらなる学習意欲につなげる方法などを研究

する。 ⇒記述による評価のフィードバック（ポートフォリオ、通知表など）

小学校3～6年生「英語科」（3年＝年間35時間 4～6年＝年間70時間）

○目標

「英語を通じて言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、聞くことや話すことを中心とするコミュニケーション能力の基礎を養う。」

⇒「読むこと」「書くこと」の基礎を緩やかに指導し、中学校につなげる。

○内容・特徴

小3 (35時間)	<p>“Hi, friends! 1”の内容をアレンジしたもの、買物ごっこ、クイズ大会などのコミュニケーション活動</p> <p>★アルファベットの大文字・小文字を識別する(カード並べ・カード遊びを通して)</p>
小4 (70時間)	<p>“Hi, friends! 1”の内容をアレンジしたもの、買物、クイズ大会、地域紹介などのコミュニケーション活動</p> <p>★アルファベットの大文字と小文字を書く。 アルファベットの各文字には音があることを知り、音をつないで身近な単語を読んだり、書いたりする。(子音+母音+子音)</p> <p>■選んだり、書き写したりして文を書く。</p>
小5 (70時間)	<p>“Hi, friends! 2”の内容をアレンジしたもの、スピーチ、プレゼンテーション(Show and Tell)、地域紹介、3往復以上の会話などのコミュニケーション活動</p> <p>★身近な単語を読んだり試写したりする。段階的に文字だけで読むことに挑戦する。単元で扱う表現を英文で読む。</p> <p>■選んだり、書き写したりして文章を書く。</p>
小6 (70時間)	<p>“Hi, friends! 2”の内容をアレンジしたもの、スピーチ、プレゼンテーション、地域紹介、外国紹介、スタンプ(劇)、レポートなどのコミュニケーション活動</p> <p>★聞いたことのある単語ならほぼ読める。推測しながら未知の単語を読むことに挑戦する。</p> <p>★eで終わる単語の読み方(bike, tubeなど)</p> <p>■フレームとして与えられたものに、単語を選んで文章を書く。</p>

○評価の観点及び趣旨

観点	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	英語表現の能力	英語理解の能力	言語や文化についての知識・理解
趣旨	コミュニケーションに関心を持ち、積極的にコミュニケーションを図ろうとする	初歩的な英語を用いて話し、自分の気持ちや考え事実などを表現している。 書くことに慣れ親しみ、書き写すなどして、自分の気持ちの一部などを表現している。	初歩的な英語を聞いて、話し手の意向を理解している。 読むことに慣れ親しみ、簡単な表現や語の意味を理解している。	体験的な活動や初歩的な英語の学習を通して、英語の特性を知り、基本的な知識を身に付けるとともに、多様な言語や文化があることを理解している。

○各単元の評価規準の例

< 4年生：注文をしよう >

観点	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	英語表現の能力	英語理解の能力	言語や文化についての知識・理解
評価規準	聞き手が理解しやすいように声の大きさや明瞭さに気を付けながら話している。	適切な声量や明瞭さで注文を聞いたり注文したりすることができる。		注文の言い方を通して英語と日本語のやり取りの違いに気付く。
評価方法	○振り返りシート ○行動観察	○行動観察 ○パフォーマンステスト		○振り返りシート ○行動観察

< 6年：行きたい国を決めよう >

観点	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	英語表現の能力	英語理解の能力	言語や文化についての知識・理解
評価規準	◎聞き返したり、相づちを打つなどしたりして、理解しながら説明を聞いている。		◎旅行プランの紹介を聞いて、その場所の特徴やそこでできることなどを聞き取ることができる。 ◎国を紹介する文を読むことができる。	◎行きたい国の世界遺産や観光名所、特色ある食べ物などを紹介する表現を知っている。
評価方法	○振り返りシート ○行動観察		○リスニングテスト ○リーディングテスト	○振り返りシート ○行動観察

○評価のフィードバックの方法

児童自身が自分の到達度を見取ることができるような CAN-DO リスト形式の「自己チェックシート」で、「評価規準」を基にその単元の到達度について自己評価させ、コンサルテーションなどにより、児童自身にフィードバックし、さらなる学習意欲につなげる方法などを研究する。

⇒観点別による評価のフィードバック（ポートフォリオ、通知表など）

< 添付資料 >

- ①CAN-DO リスト形式の到達目標
- ②年間計画（評価計画を含む）
- ③単元計画（評価方法を含む）

2 意識調査について

- ・年に2回（6月、12月）、児童・教職員を対象に意識調査を実施し、情意面、英語の力について、研究の成果・課題を把握し、研究の方向の妥当性を検討している。
- ・「外国語活動（1・2年生用）のアンケート」の言葉が、難しいという反省があったので、低学年の児童に分かりやすい表現や言い回しに変更した。（資料⑤参照）

<アンケート結果より>

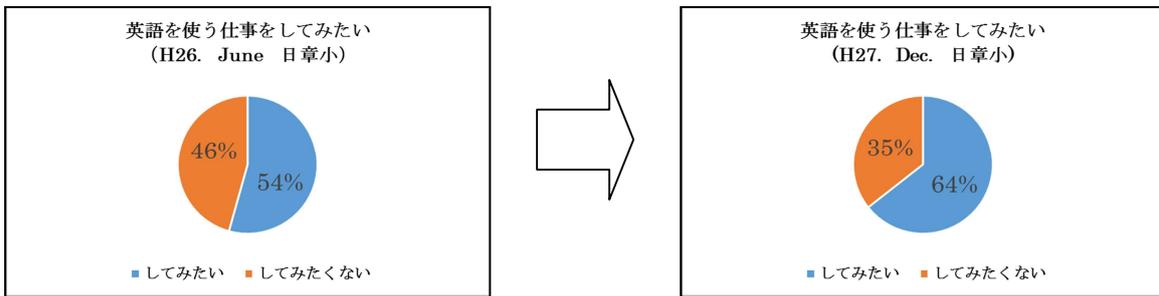
① 英語の授業が好き

	1 学期	2 学期
大湊小	93%	91%
日章小	90%	89%

平均すると90%程度の児童が「英語（英語の授業）は好き」と答えている。技能の強化ばかりに力を入れようとすると情意面が下がる傾向があるので、今後児童の「達成感」「やりたいという意欲」を大切にしながら実践研究していく必要がある。

② (将来) 英語を使う仕事をしてみたい

日章小で、英語を使う仕事をしてみたい児童が少しずつ増加している。



大湊小では、毎年70%以上の児童が、「(将来) 英語を使う仕事をしてみたい」と答えていたが、日章小でも64%になった。これは、他教科・他領域との連携がすすんだことや「英語を母国語としないけれど英語を使って世界で活躍している人々（留学生）」との交流などがプラスに働いているものと思われる。今後さらに総合などからめながら、「英語を用いて世界で働いている日本人」との出会いを仕組んでみたいと思っている。

3 外部試験の実施について

- ・小5・6を対象に「英検 Jr.」を実施し（1月）、研究の成果を検証する予定である。（小5はブロンズ、小6はシルバー）

香南中

1 教育課程について

- ①小中をつなぐ「スタートアップカリキュラム」の作成（資料④参照）

②単元を貫くプロジェクト構想

統合的な英語運用能力（場面や目的に合わせて適切な表現を選んで表現できる力）を育成するためには、単元や学年を貫く『特設課題』が必要だと感じている。そのため、単元末の課題と兼ねて、学期ごとに大きな『プロジェクト課題』を位置付け、学習事項を統合して使用する活用の場面を設定していくことにした。

学年	学期	主な内容
1 年	1 学期	自己紹介
	2 学期	人物紹介
	3 学期	地域紹介
2 年	1 学期	プレゼンテーション（地域の産物紹介）
	2 学期	ディベート

	3 学期	地球環境など社会的なテーマについてスピーチ
3 年	1 学期	日本文化の紹介
	2 学期	決められたテーマについて、賛成・反対の立場を明確にしながらまとまりのあるレポートを書く。（考えを述べる）
	3 学期	中学校生活の思い出・将来の夢 ディスカッション・ディベート

<添付資料>

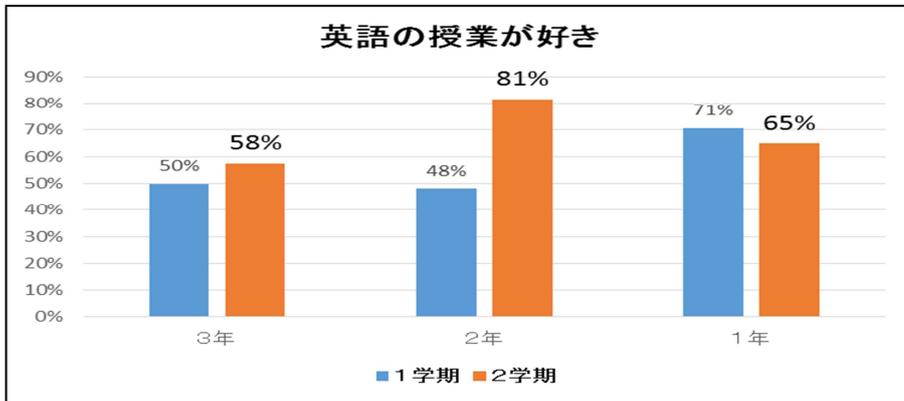
- ①CAN-DO リスト形式の到達目標
- ②年間計画（評価計画を含む）
- ③自主教材（リーディングシート・ワークシート・会話シートなど）

2 意識調査について

・年に2回（6月、12月）、生徒・教職員を対象に意識調査を実施し、情意面、英語の力について、研究の成果・課題を把握し、研究の方向の妥当性を検討することになっている。

<アンケート結果より>

★「英語の授業が好き」という生徒が、2年・3年で増えてきている。特に、2年生での上昇が著しい。これは、単元末の課題などに達成感のある課題を仕組んできた成果だといえる。

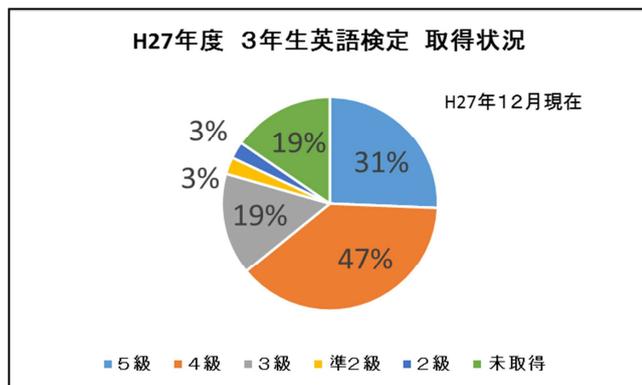


3 外部試験の実施について

- ・高知県学力定着状況調査（1月）に実施することになっている。
- ・標準学力調査等（4月）に実施した。
- ・3年生は、10月に英検を受検し、1・2年生は1月に受検する予定である。

<英語検定取得状況から>

72%以上の生徒が4級以上を取得、25%の生徒が3級以上を取得している。1年生段階での基礎が不足していた生徒も少しずつ力を付けてきている。依然として二極化の傾向にあるが、来年度以降この二極化の傾向を改善していくことを目指して、実践研究を深めたい。



【 課 題 】

日章小

1 教育課程について

- ① 発達段階に即した、児童の意欲を高める評価の在り方をさらに研究する必要がある。小学校段階で「正確性」をどの程度みていくかなど、細部にわたって評価規準（評価基準も含め）を検討する。
- ② 小学校英語担当（JTE）がいなくても、学級担任が主体となって ALT・JTE と連携を図りながら実践継続できるものにしていかなければならない。
- ③ 「言いたい」「話したい」と児童が興味を持って取り組めるように、単元末課題の設定を工夫する。
- ④ 「将来、ますます国際する社会で活躍する人材」の育成をねらうためにも他教科・領域との連携をさらに図り、キャリア教育の視点からの教育課程の見直しが必要である

2 意識調査について

- ・ 保護者を対象とする意識調査については未実施のため、3学期に実施する。

3 外部試験について

- ・ 「英検 Jr」を実施することになっているが、「聞く力」を中心とする測定であるため、「話す力」を客観的に測る方法についても模索したい。

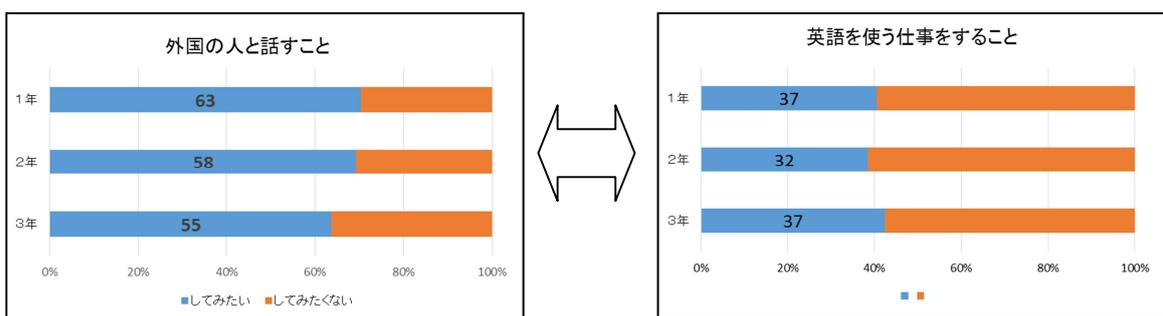
香南中

1 教育課程について

- ① 知識・技能を身に付けながら、学習意欲を高め、思考力・判断力・表現力等の育成を目指したものに改編していく必要がある。
- ② 高等学校との接続をもっと意識したものにしていく必要がある。
- ③ 他教科等と連携を図り、英語科だけではなく学校全体として「生徒自らが主体的に学ぶ授業方法（形態）の工夫」などを研究することにより、研究成果の高まりが期待される。

2 意識調査について

<アンケート結果より>



英語学習が将来にどう結びつくのか、具体的なイメージを持つことができていない生徒が多い。キャリア教育の視点からも「他教科等と連携」を図りながら、「英語学習と将来のビジョン」を結びつける取組をしていかなければならない。

3 外部試験について

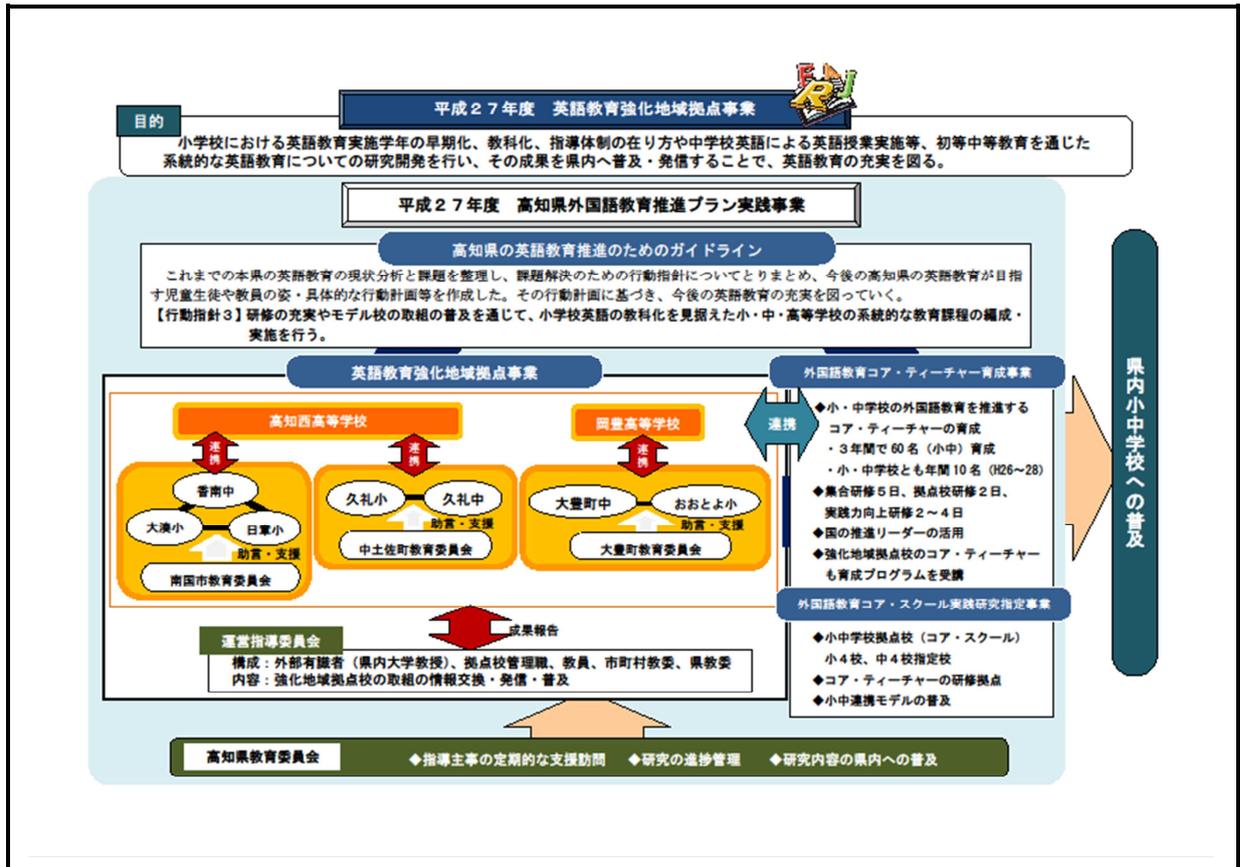
- ・ 「英検」を実施しているが、4技能をすべて測ることはできていない。特に、「話す力」を客観的に測ることができているか検証するためにも、「話す力」を測る外部試験の実施も検討する。

高知西高等学校

- ・今年度2回目の生徒対象のアンケートを実施し、情意面、指導体制などについて、研究の成果・課題を把握し、研究の方向性の妥当性を検討していく。
- ・学力定着把握検査（4月、9月）の結果や英語外部試験等を分析し、学力状況や定着を把握し、研究の妥当性を検討する。

4. 研究組織

(1) 研究組織の概要



(2) 運営指導委員会

①活動計画

○活動計画

- ・運営指導委員は、研究校で開催される年間3回実施する運営指導委員会に出席する。
- ・運営指導委員会では、強化地域における取組や事業の方向性について指導・助言を行う。
- ・研究校における公開授業や研究協議会に適宜参加し、適切な指導・助言を行う。

○平成27年度の進捗状況・課題

【進捗状況】

運営指導委員会2回実施（第1回平成27年7月2日、第2回平成28年2月16日予定）

<第1回>

日時：平成27年6月29日（月）13：30～17：00

会場：南国市立日章小学校

内容：公開授業、県からの事業説明、公開授業についての研究協議、各校の取組報告及び協議、

	<ul style="list-style-type: none"> ・県教委指導主事による支援訪問【日章小 6/29(月)】 	
7月	<ul style="list-style-type: none"> ◆公開授業、研究協議、情報交換【大湊小 7/8(水)】 ・県教委指導主事による支援訪問【大湊小 7/8(水)】 ◆拠点地域内の担当者会【大湊小 7/8(水)】 	第1回運営指導委員会
8月	<ul style="list-style-type: none"> ◆合同研修会(香南中・日章小・大湊小) 【大湊小 8/21(金)】 ◆拠点地域内の担当者会【大湊小 8/19(水)8/20(木)】 ・指導主事による支援訪問 【大湊小 8/19(水)8/20(木)】 	
9月	<ul style="list-style-type: none"> ◆公開授業、研究協議、情報交換 【大湊小② 9/10(木)】 □学力定着把握検査(高等学校) ・県教委指導主事による支援訪問【大湊小② 9/10(木)】 	
10月	<ul style="list-style-type: none"> ◆高校英語担当とのT-T授業【大湊小 10/13(火)】 ◆高校英語担当とのT-T授業【香南中 10/19(月)】 ◆公開授業、研究協議、情報交換 【香南中② 10/14(水)】 ◆拠点地域内の担当者会【香南中 10/14(水)】 ・英検(中学校3年)【香南中 10/9(金)】 ・県教委指導主事による支援訪問【香南中 10/14(水)】 	
11月	<ul style="list-style-type: none"> ◆高校英語担当とのT-T授業【日章小 11/17(火)】 ・県教委指導主事による支援訪問【日章小 11/17(火)】 	
12月	<ul style="list-style-type: none"> □児童・教職員意識調査実施(小学校) □生徒・教職員意識調査実施(中学校) ◆公開授業、研究協議情報、情報交換【日章小②12/2(水)】 ◆高等学校公開授業、研究協議、情報交換 【西高校12/11(金)】 ◆各拠点地域内の担当者会【西高校12/11(金)】? ◇第2回県連絡協議会【西高校12/11(金)】? ◆拠点地域内の担当者会【香南中 12/28(月)】 ・県教委指導主事による支援訪問【日章小② 12/2(水)】 【香南中 12/28(月)】 【西高校 12/11(金)】 	第2回運営指導委員会
1月	<ul style="list-style-type: none"> ◆各拠点地域の担当者会 【日章小1/20(水)】 ◆公開授業、研究協議、情報交換【日章小 1/20(水)】 □高知県学力定着状況調査実施 ・県教委指導主事による支援訪問【日章小 1/20(水)】 ・児童英検(小学校5・6年)【1/19(火)】 ・英検(中学校1・2年)【1/22(金)】 	
2月	<ul style="list-style-type: none"> ◆公開授業、研究協議、情報交換【香南中 2/10(水)】 ◆拠点地域内の担当者会【香南中 2/10(水)】 ◇第3回県連絡協議会【おおとよ小 2/16(火)】 □生徒・教職員意識調査(高等学校) ・県教委指導主事による支援訪問【香南中 2/10(水)】 	第3回運営指導委員会

3月	◆拠点地域内の担当者会【香南中 3 / 2 5 (金)】 ・指導主事による支援訪問【香南中 3 / 2 5 (金)】	
【その他の取組】※あれば記入		

平成28年1月21日

事業経過報告書

文部科学省初等中等教育局長 殿

都道府県教育委員会等名 高知県教育委員会

所 在 地 高知県高知市丸ノ内1丁目7番52号

代表者職氏名 高知県教育長 田村 壮児

平成27年度英語教育強化地域拠点事業における事業経過報告書を提出します。

1. 事業の実施期間

委託を受けた日 ～ 平成28年3月31日

2. 強化地域拠点の学校名 (学校数が多い場合は欄を追加すること)

ふりがな	こうちけんりつ こうちにし こうとうがっこう	ふりがな	まつぎ ゆうすけ
学校名	高知県立高知西高等学校	校長名	松木 優典
ふりがな	なかとさちょうりつ くれ ちゅうがっこう	ふりがな	たにうち のりお
学校名	中土佐町立久礼中学校	校長名	谷内 宣夫
ふりがな	なかとさちょうりつ くれ しょうがっこう	ふりがな	あまの ひさし
学校名	中土佐町立久礼小学校	校長名	天野 比左志

3. 研究内容

(1) 研究開発課題

国際化時代に必要なコミュニケーション能力を育成するため、小学校第3・4学年で外国語活動を、第5学年から教科としての「外国語科」を新設した場合の教育課程、指導及び評価方法並びに中学校・高等学校との教育課程との円滑な接続の在り方についての研究開発

(2) 研究の概要

本強化地域における児童生徒は、外国語活動や英語の授業に楽しく参加でき、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度は育ってきている。しかし、小学校で培ったコミュニケーション能力の素地を中・高等学校において生かすことが十分ではなく、児童生徒の学びの連続性や円滑な接続した指導に課題があると考えます。

このことから、本強化地域においては、小学校第3・4学年で外国語活動を、第5学年から教科としての「外国語科」を新設することで、学習内容の系統性、指導方法の継続性が生まれ、小中高の滑らかな接続と4技能の発達段階に応じた育成を図ることができると考える。

(3) 現状の分析と仮説等

①現状の分析と研究の目的

本地域の小中学校区における児童生徒は、外国語活動や英語の授業に楽しく取り組み、積極的に友だちともコミュニケーションを図ろうとすることができる。そのことは、「外国語の授業は好き95%」、「授業に進んで参加している84%」という、平成26年度実施の児童アンケートの結果からうかがえる。しかし、小学校での学びや活動が中・高等学校の英語学習に効果的に接続し、英語の学力が向上しているとは言えず、中学校では、「外国語の授業は好き69.4%」と意欲において、下がる傾向がみられる。これは、英語を使うことを目的としたコミュニケーション能力の観点において目標の一貫性に課題があるのではないかと考える。

このことから、小学校で外国語科を新設し、小中高の学習内容の系統性、指導方法の継続性を図り、より滑らかな接続と小学校段階での発達段階に応じた「聞くこと」「話すこと」を重点に「読むこと」「書くこと」も含む4技能を育成する。

②研究仮説

小学校での外国語科を新設し、教育課程、評価規準等を児童の発達段階や中・高等学校の接続を見据えて作成し実践することで、小中高の英語教育の連続性のある学びが生まれ、児童生徒の英語を使ったコミュニケーション能力が向上するだろう。

具体的には、①小学校「外国語科」のカリキュラムの作成（「読むこと」「書くこと」の導入時期と方法の研究を含む）、②児童の意欲を高める学習評価の在り方、③小中高をつなぐ系統的なカリキュラム作成、④中学校での指導内容の高度化等について、研究を深める。

③研究成果の評価方法

○小中高の効果的な接続を図った教育課程の作成

○児童生徒・教職員への意識調査（年2回）

○児童英検・標準学力調査、高知県学力定着状況調査及び英語検定の実施

<H29までに児童英検取得率80%（小学校）、英語検定 3級 取得率50%をめざす>

(4) 研究開発型 ※平成27年度新規採択件については、平成26年度は斜線を引くこと。

	開始学年及び週当たり授業時数コマ			
	第一年次 (H26)	第二年次 (H27)	第三年次 (H28)	第四年次 (H29)
①小学校 外国語活動型	第3・4学年 1コマ	第3学年	第3学年	第3学年
	第5・6学年 2コマ	1コマ	1コマ	1コマ
②小学校 教科型	第 学年 コマ	第5学年 2コマ	第5学年 2コマ	第5学年 2コマ

(5) 研究計画 ※平成27年度新規採択件については、第一年次から第三年次まで記載すること。

○第一年次～第四年次、校種別

小学校 一年次	<p>【平成26年度】</p> <p>○第3・4学年 外国語活動 年間35時間＜使用教材“Hi, friends!1”及び自主教材＞</p> <p>○第5・6学年 外国語活動 年間70時間＜使用教材“Hi, friends!1、2”＞</p> <p>◆学校全体で取り組み、効果的な小中連携を図るための組織を構築する。</p> <p>◆外国語活動の指導の充実（時間増分）を図る。 ≪例≫次年度に向けたコミュニケーション能力育成や学習評価の在り方の工夫を行う。</p> <p>◆教員の指導力向上のための校内研修の充実を図り、組織体制を構築する。 ≪例≫教員の授業力や英語力向上についての研修計画を立てる。</p> <p>◆「外国語科」の新設準備 ≪例≫「外国語科」における学習内容・評価・評定等の在り方の確認 教科カリキュラムの研究及び編成</p> <p>◇先進校視察</p> <p>◇強化地域内の中学校及び高等学校との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校での年間2回の授業参観 ・高等学校での年間1回の授業参観 ・高等学校教員、中学校教員とのTT <p>◇外国語教育担当教員の位置付け（加配教員）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国の推進リーダー研修参加と成果普及 ・県事業コア・ティーチャー育成プログラム受講 <p>◇研究成果の発信・普及・検証</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県事業における年間3回の公開授業及び県連絡協議会
二年次	<p>【平成27年度】</p> <p>○第3・4学年 外国語活動 年間35時間＜使用教材“Hi, friends!1”及び自主教材＞</p> <p>○第5・6学年 外国語科 年間70時間＜使用教材“Hi, friends!2”及び文部科学省H26年度配付予定の教材＞</p> <p>◆検証した一年次の研究の成果と課題を踏まえて、実践内容を改善する。</p> <p>◆「外国語科」の新設 ≪例≫教科カリキュラムの運用・修正 ≪例≫児童の発達段階や意欲を高める学習評価の在り方についての研究 ≪例≫補助教材を使った「読むこと」「書くこと」の弾力的な指導の導入</p> <p>振り返りシート作成、評価方法（評価テスト作成）、評価の仕方についての共有</p> <p>◇強化地域内の中学校及び高等学校との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校での年間2回の授業参観 ・高等学校での年間1回の授業参観 ・高等学校教員、中学校教員とのTT <p>◇外国語教育担当教員の位置付け（加配教員）</p> <p>◇研究成果の発信・普及・検証</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県事業における年間3回の公開授業及び県連絡協議会
三年次	<p>【平成28年度】</p> <p>○第3・4学年 外国語活動 年間35時間＜使用教材“Hi, friends!1”及び自主教材＞</p> <p>○第5・6学年 外国語科 年間70時間＜使用教材“Hi, friends!2”及び文部科学省H26年度配付予定の教材＞</p> <p>◆検証した二年次の研究の成果と課題を踏まえて、実践内容を改善する。</p> <p>◆発達段階に応じた「読むこと」「書くこと」の指導の系統について研究する。 ≪例≫発達段階と学習経験を踏まえた「読む・書く」指導の開始時期と指導内容の系統表を作成する。（アルファベットの認識、大文字小文字の導入から小学校段階での指導について）</p> <p>◇強化地域内の中学校及び高等学校との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校での年間2回の授業参観 ・高等学校での年間1回の授業参観 ・高等学校教員、中学校教員とのTT <p>◇外国語教育担当教員の位置付け（加配教員）</p> <p>◇研究成果の発信・普及・検証</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県事業における年間3回の公開授業及び県連絡協議会

	四年次	<p>【平成29年度】</p> <p>○第3・4学年 外国語活動 年間35時間＜使用教材“Hi, friends!1”及び自主教材＞</p> <p>○第5・6学年 外国語科 年間70時間＜使用教材“Hi, friends!2”及び文部科学省H26年度配付予定の教材＞</p> <p>◆検証した三年次の研究の成果と課題を踏まえた研究成果と課題をまとめる。</p> <p>◆発達段階に応じた「読むこと」「書くこと」の指導の系統について研究する。</p> <p>≪例≫発達段階と学習経験を踏まえた「読む・書く」指導の開始時期と指導内容の系統表を作成する。（アルファベットの認識、大文字小文字の導入から小学校段階での指導について）</p> <p>◆第6学年の中学校への接続における効果的な指導について研究する。</p> <p>≪例≫円滑な接続プログラムの作成</p> <p>◇強化地域内の中学校及び高等学校との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校での年間2回の授業参観 ・高等学校での年間1回の授業参観 ・高等学校教員、中学校教員とのTT <p>◇外国語教育担当教員の位置付け（加配教員）</p> <p>◇研究成果の発信・普及・検証</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県事業における年間3回の公開授業及び県連絡協議会
中学校	一年次	<p>【平成26年度】</p> <p>◆効果的な小中連携を図るための組織を構築する。</p> <p>◆CAN-DO リスト形式の学習到達目標を設定し、4技能別の到達目標の見直しを行う。</p> <p>◆「使える英語」を目的とした単元ゴール設定の見直しを行う。</p> <p>≪例≫場面設定や既習事項の復習を考えたゴールの工夫</p> <p>◇強化地域内の小学校及び高等学校との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校での年間2回の授業参観及びTT ・高等学校での年間1回の授業参観 <p>◇県事業コア・ティーチャー育成プログラム受講</p> <p>◇先進校視察</p> <p>◇研究成果の発信・普及・検証</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県事業における公開授業及び県連絡協議会
	二年次	<p>【平成27年度】</p> <p>◆検証した一年次の研究の成果と課題を踏まえて、実践内容を改善する。</p> <p>≪例≫書くことについて課題があることを改善するため、書くことを含め、技能を統合した総合的な評価活動を行う。</p> <p>◆小学校のカリキュラムとの円滑な接続を目指した小6－中1の接続プログラムを作成する。</p> <p>◆授業での生徒・教員の英語使用量を上げるための研究を行う。</p> <p>≪例≫教科書で扱われている題材や言語材料を、生徒の身近な話題と関連付けて、生徒と教員間、また生徒間でのインタラクションの時間を多く設ける。</p> <p>◇強化地域内の小学校及び高等学校との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校での年間2回の授業参観及びTT ・高等学校での年間1回の授業参観 <p>◇先進校視察</p> <p>◇研究成果の発信・普及・検証</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県事業における公開授業及び県連絡協議会
	三年次	<p>【平成28年度】</p> <p>◆検証した二年次の研究の成果と課題を踏まえて、実践内容を改善する。</p> <p>◆高等学校との滑らかな接続を考慮したプログラムを作成する。</p> <p>≪例≫授業を英語で行うことや、より実践的・オーセンティックな言語活動の導入。</p> <p>◇強化地域内の小学校及び高等学校との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校での年間2回の授業参観及びTT ・高等学校での年間1回の授業参観 <p>◇先進校視察</p> <p>◇研究成果の発信・普及・検証</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県事業における公開授業及び県連絡協議会

	四年次	<p>【平成29年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆検証した三年次の研究の成果と課題を踏まえた研究の成果と課題をまとめる。 ◆授業を英語で行う。 ◆小・中・高等学校との連続性・系統性をもったカリキュラムの作成 ◆高等学校との接続プログラムを運用する。(第3年次作成) <p>◇強化地域内の小学校及び高等学校との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校での年間2回の授業参観及びTT ・高等学校での年間1回の授業参観 <p>◇先進校視察</p> <p>◇研究成果の発信・普及・検証</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県事業における公開授業及び県連絡協議会
高等学校	一年次	<p>【平成26年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆円滑な小中高接続を目指したCAN-DOリスト形式での学習到達目標の研究 小中高で一貫性のある英語の学習到達目標の設定についての研究を行う。 ◆教科書の単元構想の研究 学習到達目標に照らし合わせて、教科書の各単元を、①各単元の目標設定、②言語活動、③評価方法という3つの観点で再教材化する方法についての研究を行う。 <p>◇強化地域内の小中学校との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校の授業参観・研究協議への参加(年間2回) ・中学校の授業参観・研究協議への参加(年間2回) ・高等学校で研究授業の実施(年間1回) <p>◇研究成果の発信・普及</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究授業及び研究発表会「まなび21フォーラム」
	二年次	<p>【平成27年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆円滑な小中高接続を目指したCAN-DOリスト形式での学習到達目標の研究 ◆教科書の単元構想の研究 <p>◇強化地域内の小中学校との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校の授業参観・研究協議への参加(年間1回) ・中学校の授業参観・研究協議への参加(年間1回) ・高等学校で研究授業の実施(年間1回) <p>◇研究成果の発信・普及</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究授業及び研究発表会「まなび21フォーラム」
	三年次	<p>【平成28年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆円滑な小中高接続を目指したCAN-DOリスト形式での学習到達目標の研究 ◆教科書の単元構想の研究 <p>◇強化地域内の小中学校との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校の授業参観・研究協議への参加(年間1回) ・中学校の授業参観・研究協議への参加(年間1回) ・高等学校で研究授業の実施(年間1回) <p>◇研究成果の発信・普及</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究授業及び研究発表会「まなび21フォーラム」
	四年次	<p>【平成29年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆円滑な小中高接続を目指したCAN-DOリスト形式での学習到達目標の研究 ◆教科書の単元構想の研究 <p>◇強化地域内の小中学校との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校の授業参観・研究協議への参加(年間1回) ・中学校の授業参観・研究協議への参加(年間1回) ・高等学校で研究授業の実施(年間1回) <p>◇研究成果の発信・普及</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究授業及び研究発表会「まなび21フォーラム」

○平成27年度の進捗状況・課題

久礼小学校

ア 教育課程の編成、使用教材

- (1) 第3・4学年 総合的な学習の時間の時数を1時間削減して外国語活動 年間35時間実施
使用教材：自主教材
- (2) 第5・6学年 総合的な学習の時間の時数を1時間削減して外国語科 年間70時間実施
使用教材：“Hi, friends!1”、“Hi, friends!2”及び文部科学省H27年度
配付の教材

イ 検証した一年次の研究の成果と課題を踏まえての実践内容の改善点

<一年次の課題と改善点>

(課題1) 児童英検結果からみえた【聞くこと】の課題に対する指導の在り方

【改善点】

- ① “聞き慣れる時間”として『Today's talk』『Hi, friends「Let's listen」』の活用、ALT、JTE、HRTによるデモンストレーション、中学生、高校生からのビデオレター鑑賞等を組み入れ、授業の中で“聞き慣れる時間”を保障する。
- ② 必然性のある場面設定をし、クラスルームイングリッシュを意識的に使用することで日本語を介さず英語の意味合いを理解させるようにする。
- ③ 児童英検 1月26, 29日予定 第5学年 ブロンズ
第6学年 ブロンズ、シルバー受検

(課題2) 教員の授業力・英語力の向上

【改善点】

- ① 授業では、クラスルームイングリッシュを意識的に使用し、校内研修では常に使用するフレーズを全教員が共有する。
- ② 語彙を多くするため、活動に応じた指示英語の学習会を全校で行う。(H27年8月実施)
- ③ 外国語教育授業スタンダードを作成し、単元毎にゴールを明確にしたうえで、バックワードイメージをもって授業構成を行う。
- ④ 研究授業の事前研は、全教員が参加し指導主事の指導・助言もいただきながら、指導案の検討や重要な活動の模擬授業を行う。また、事後研では講師の指導助言を全教員で聞き、課題を共有できる時間にする。(H27年6月、11月実施)
- ⑤ 先進校の実践を紹介し、参考にしたい内容を本校に適した形で取り入れて授業改善を行う。
(チャンツ、絵本の活用、文字指導、歌の活用、単元ゴールの活動)
- ⑥ 第5、6学年の評価におけるパフォーマンステストでは複数の教員で評価を行う。後日、留意点を口頭で伝えた上で、どのような内容であったかをペーパーにして全教員に配布する。(H27年7月8、10日 H27年12月8、18日実施)
- ⑦ HRTとALTのみで行う授業形態を標準形態にしていく。

(課題3) 保護者への周知、外国語活動に対する保護者の理解

【改善点】

- ① 参観日に2回の外国語活動授業を実施し、実際の活動を参観してもらうことによって保護者の理解を図り、学級便りに返信欄を設け意見を吸い上げるように努める。
- ② 年度末に保護者向けの外国語教育に関するアンケートを実施する。(H28年2月に予定)

ウ 「外国語科」の新設

(1) 教科カリキュラムの運用・修正

【工夫した点、留意した点及び次年度に向けて】

- ① 第4学年までの学習歴を踏まえ、スパイラルに学習内容を編成する。
・外国語活動で培ってきた素地を生かす。
(学習形態：ペア、グループ活動、教材：絵本、歌、チャンツ)
・バックワードイメージを明確にもち、無理なくレディネスを確立する。

- ・同一場面で使用言語を少しずつ増やし、児童が学習の積み上げを意識できるようにする。
 - ・場面設定をはっきりさせることによって、児童が学習の成果を実感できるようにする。
- ②定着を意識した指導に留意する。
- ・帯活動を活用し、既習事項と本時の学習をつなげる時間を保障する。
 - ・いくつかの単元を学習した後に集約的な単元を設定する。
 - ・児童が意欲的に活動できるようより効果的な学習場面を設定する。
- ③中学校のカリキュラムと効果的な連携を図る。
- ・CAN-DO リストの再検討を行う。
 - ・カリキュラムの連携を指導者が意識し、年間指導計画に明記し、実践を行う。
 - ・共通の教材を使用する。(絵カード、個人カード、クイズ形式、チャンツ等)

(2) 児童の発達段階や意欲を高める学習評価の在り方についての研究

①観点別評価

【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】

第5学年・第6学年	
	互いの気持ちや考えを大切にし、友だちとの関わりの中で、積極的にコミュニケーションを図ることができる。

【外国語の表現の能力】

	第5学年	第6学年
話すこと	日常なじみのある事柄(あいさつ、天気、自分の名前、好み、気分、持ち物等)であれば、短く簡単な語句を使って話そうとする。	日常なじみのある事柄(あいさつ、天気、日時、自分の名前、好み、気分、持ち物、習慣、願望等)であれば、短く簡単な語句を使って聞き手を意識しながら話そうとする。
	特定のなじみのある場面で、身近な話題に関して、相手の話を聞いて、反応しながら自分のことや事実について話することができる。	特定のなじみのある場面で、身近な話題に関して、相手の話を聞いて反応しながら、自分のことや事実について、新しい情報を追加して話することができる。
書くこと	アルファベットの大文字を書くことができる。自分の名前を書くことができる。	アルファベットの小文字を書くことができる。自分の名前を小文字で書くことができる。

【外国語の理解の能力】

	第5学年	第6学年
聞くこと	日常生活や学校生活の身近な特定の場面において、補助的な手がかりがあれば大まかな内容を理解できる。	日常生活、学校生活、地域生活に加えて将来を見通した身近な特定の場面において、補助的な手がかりがあれば、大まかな内容を理解できる。
読むこと	アルファベットの大文字を読むことができる。	アルファベットの小文字を読むことができる。
	身近で見慣れた簡単な英語について、大文字表記であれば様々な情報を手がかりにして理解することができる。	身近な英語について、大文字、小文字表記1語程度であれば、様々な情報を手がかりにして理解することができる。

【言語や文化についての知識・理解】

第5学年・第6学年	
	体験的な外国語活動を通して、外国語の基本的な知識を身に付け、我が国や外国の言語や文化のよさ、違いを理解している。

②学習評価の工夫

【単元末の活動の工夫】

- ・児童が見通しをもって意欲的に学習に取り組み、自信をもって自分の言いたいことを伝えられるように、単元末の活動を工夫した。その際、児童が自信をもって活動できるよう、ス

パイラルに学習内容を設定している。

- ・授業ごとに、児童の態度面・技能面の見取りを行い、支援の必要な児童には、個別指導を行っている。

【児童一人一人の学習状況の把握】

- ・単元ごとに、振り返りシート1枚を作成し、自分や友だちのがんばりを記録して、発表し合うなど、次時への意欲付けにしている。その際、学級担任、ALT、JTE がそれぞれ目を通し学習状況を把握し、一人一人のシートにコメントを入れて返している。

【評価方法】

- ・授業中の行動観察

HRTは児童理解の側面で観察し、ALTやJTEは英語面で観察を行う等、役割を分担している。また、その場で観察しきれない場合を想定し活動を撮影して、事後に観察する場合もある。

- ・振り返りシート

本来、各児童の学習状況を把握するための振り返りシートではあるが、指導者が期待する内容の気付きは、口頭で紹介したり、イングリッシュルームに掲示したり、学級通信に掲載したりしている。そのことにより、クラス全体の質の向上を図るようにしている。

- ・パフォーマンステスト

<聞くこと>

帯活動の中に「Today's quiz」を設定し、ALTの英語をしっかりと聞いて内容を推察する機会を設定している。内容に関しては、既習の英語表現を使用しているが、時には、未習のものも扱い「曖昧さに耐える」経験をさせている。

<話すこと>

学期末に「English rally」を設定し、既習の表現でALT、JTEと会話形式やゲーム形式のタスク活動を行っている。

<読むこと>

学期末に「English rally」を設定し、既習の表現でALT、JTEとアルファベットのポインティングゲームや単語の二択問題のタスク活動を行っている。

<書くこと>

自分の誕生日を英文で紹介したものを正しく視写したり（6年生）、自分の名前を視写したり（5年生）している。

(3) 補助教材を使った「読むこと」「書くこと」の弾力的な指導の導入

① 『Hi, friends! Plus』の活用

	もくじ	時間帯	学年
ワークシート	アルファベットの大文字認識	外国語科授業、家庭学習	5
	アルファベットの小文字認識	外国語科授業、家庭学習	6
	アルファベットの大、小文字の認識	外国語科授業、家庭学習	6
	アルファベットの文字の認識・単語の認識	外国語科授業、家庭学習	6
	アルファベットの文字の認識	外国語科授業、家庭学習	6
	アルファベットの文字の認識・音の認識	外国語科授業、家庭学習	6
	アルファベットの文字の認識・単語の認識	外国語科授業、家庭学習	6
	語順への気付き	外国語科授業	6
	動作を表す語	外国語科授業	6
デジタル教材	書き方例	外国語科授業	5・6
	Q1 小文字探し	外国語科授業	6
	Q2 アルファベット文字当てパズル	外国語 (活動) 科授業	3～6
	Q3 アルファベット文字当て懐中電灯	外国語 (活動) 科授業	3～6
	Q4 アルファベット文字当て 何の文字かな	外国語 (活動) 科授業	3～6
	Q5 1 What color? Quiz	外国語科授業	6
	Q6 仲間の言葉を集めよう	外国語科授業	6
	Q7 始まりの音がちがうのはどれでしょう	外国語科授業	6
	ジングル	外国語 (活動) 科	6
	絵本 This is ME!	外国語科授業	6
	絵本 A Letter to...	外国語科授業	6

② アルファベットの文字認識に関して

3年生で大文字、4年生で小文字を導入した。その際、Air Writing (空書き)、Back Writing (伝言ゲーム)、Body Alphabet (体文字ゲーム) 等を取り入れ全身を使うこと、ペア・グ

ループで協力しながら活動することで文字に対して気楽に慣れ親しめるように学習活動を設定している。

③ ワークシート教材

5年生、6年生では、授業の「話す」「聞く」活動の時間確保のため、長期休暇の宿題に組み入れた。

④ ディスク教材

3年生から6年生までアルファベットに関する Lesson で使用し、その後、帯活動の中で繰り返し活用している。また、ジングルは6年生が学級の朝の会における音読に「英語タイム」として位置付けている。

エ 強化地域内の中学校及び高等学校との連携

(1) 中学校での年間2回の授業参観

① 加配教員が毎週1回中学校を訪問し、TTで授業を行っている。

- ・1年生のスタートカリキュラムの見直しと実施に参画した。
- ・外国語活動と関連のある教材の指導の際は、生徒の学習を共有している。

② 小学校全教員が4月、6月に中学校の公開授業を参観した。

- ・参観することによって、学習のつながりへの理解が深まり、今後の学習の継続的指導の重要性を実感することができた。

(2) 小学生と中学生の年間3回の交流授業

① 小学4年生と中学2年生（7月）

「小学生による小学校の先生クイズ・中学生による Who am I?クイズ」（小学校体育館）

② 小学6年生と中学3年生（12月）

「中学生による、中学校の先生と部活動紹介」（中学校多目的室）

③ 小学5年生と中学2年生（2月実施予定）

「小学生の好きなものランキング調査」（中学校多目的室）

- ・カリキュラムの中に位置付けることで既習の学習内容を使って効果的に行うことができた。
- ・児童の外国語学習への更なる動機付けとなったことが、事後のアンケート結果から明らかになった。

(3) 高等学校での年間1回の授業参観

① 外国語教育担当教員による高知西高等学校の1年生の公開授業参観（12月）

即興で英語での意見や思いを伝える経験を豊かにしておくことの必要性を実感した。

② 公開授業後の協議会

各校の評価の在り方に関して、実践交流、情報交換、討議を行い、指導の継続性の有用性を共通理解できた。

(4) 高等学校教員、中学校教員とのTT

① 高等学校教員とのTT

- ・小学校5・6年生の授業で、TTを効果的に行うことができた。
- ・児童は授業に意欲的に取り組み、慣れ親しんだ英語を試す貴重な機会となった。英語を使ってコミュニケーションがとれたことの達成感と、将来の見通しをもって今後学習に励むことへの意欲付けとなった。（振り返りシートより）

② 中学校教員とのTT

- ・1月、2月実施予定

オ 外国語教育担当教員の位置付け（加配教員）

コーディネーターとして以下の内容を行っている。

- | | |
|----------------------------|-----------------|
| ①教育計画、年間指導計画、単元表の作成、見直し | ②授業準備 |
| ③授業後の学習者振り返りシート点検 | ④授業後の改善点の提案、検討 |
| ⑤校内研修の計画、内容検討、実施 | ⑥教職員英語力向上研修実施 |
| ⑦ALTとHRTの調整、⑧中学校におけるTT授業参加 | ⑨小中高連携の計画、実施、推進 |
| ⑩先進校視察と本校での普及 | |

カ 研究成果の発信・普及・検証

県事業における年間3回の公開授業及び県連絡協議会への参加

久礼中学校 進捗状況（課題 ●）

◆**検証した一年次の研究の成果と課題を踏まえて、実践内容を改善する。**

- 町内の教科研究ネットワーク（英語科）で CAN-DO リスト形式の学習到達目標の見直しを行った。
- 昨年度の秋田での先進校視察で学んだ A B C D フォーマットを使い、テーマについてキーワードを基にペアで話し合った後、話した英文をノートに書かせる統合的な活動を行うことで、効果的なコミュニケーションの場面設定を行った。
- 書く力を育成するため、単元ゴールとしてまとまりのある英文を書くことに取り組ませた。
- 高等学校での学習につながる論理的思考を意識したフリートークやプレゼンテーション、ミニ・ディベートに取り組んだ。
- ミニ・ディベートやプレゼンテーションに取り組んだが、原稿を暗記して話すことから脱却していない。即興性を育成するために、活動の回数を増やしメモを見ながら話す習慣を身に付けさせることや、帯活動でフリートークを行うなどの常時指導を行いたい。

◆**小学校のカリキュラムとの円滑な接続を目指した小6ー中1の接続プログラムの作成を行う。**

- 小中9年間を通した CAN-DO リスト形式の学習到達目標を作成した。
- 中学校卒業時に、将来の夢や自分の好きなこと、故郷である中土佐町などについて、英語でプレゼンテーションができることを目標に取り組むことを確認した。
- 小中の教材を共通化（S S Tメソッド）し、リスニングの力を鍛え、知っている語彙を増やすことで英語の即興性を高めることを確認した。

◆**授業での生徒・教員の英語使用量を上げるための研究を行う。**

- 授業での英語使用量を増やすために以下のような取り組みを行った。

・聞くことについて

- ①TFテスト ②ディクテーション ③イングリッシュ・ソング ④英語での新出語句の導入
- ⑤教科書本文についてのTFテスト ⑥映像を使った英語での新出文型の導入
- ⑦ALTによるスマールトークのあとTFテスト

・話すことについて

- ①日常会話練習 ②新出文型のチャンツ ③新出文型のドンジャンゲーム
- ④ピクチャー・ディスクリビング ⑤テーマについてのフリートーク
- ⑥ミニ・ディベート ⑦ペアで語彙の発音練習、意味確認
- ⑧インフォメーション・ギャップ会話
- ⑨画像や物を使ってプレゼンテーション ⑩自己紹介や他己紹介 ⑪スキットテスト

・読むことについて

- ①教科書本文音読練習 ②教科書本文その他についてTFやQA
- ③読んだ内容についてリテリング ④読んだ内容について感想を書く

・書くことについて

- ①ペアで会話した内容を書く ②新出文型を使った3ヒントクイズを作り、出題し合う
- ③単元ゴールとしてのテーマを英作文し、読みあってコメントを書く
- ④100文ノック作文指導

・上記のうち技能が統合された活動

{聞く+話す}

- ①日常会話練習 ②テーマについてのフリートーク ③ミニ・ディベート
- ④インフォメーション・ギャップ会話 ⑤スキットテスト

{読む+話す}

- ①読んだ内容についてリテリング

{読む+書く}

- ①読んだ内容について感想を書く

{話す+書く}

- ①ペアで会話した内容を書く

{書く+読む}

- ①単元ゴールとしてのテーマを英作文し、読みあってコメントを書く

- 単元ゴールとしての英作文は、定期テストで見取りを行った。テストの際には暗記して答えを書いていた。（正答率 66%）しかし、テーマが変わったときや時間が経つと書けなくなるなど、定着しているとはいえない状況にある。対策として、授業の振り返りにその日に使った英文を書かせてペアで交換し、間違っているところに互いにチェックを入れるなどの活動をさせ、さらに教師がノート点検をすることを徹底していきたい。

◇強化地域内の小学校及び高等学校との連携

○小学校との連携

①小学校外国語教育担当教員との連携

- ・中1スタートカリキュラム時のTT
- ・毎週水曜日、久礼中1年生～3年生の授業においてTT（モデルトーク、生徒とのインタラクション、机間指導）
- ・情報交換、授業案の作成、研究授業や交流授業の計画、教材の貸し借り・開発、研究の方向性確認

②小学校の授業参観及びTT

- ・久礼小学校4年生、外国語活動参観（6月23日）
「Who am I?クイズをしよう！」
- ・久礼小学校5・6年生、外国語科参観（10月16日）
小5「好きなものを伝えよう」
小6「できることを紹介しよう」高等学校教員との交流
- ・久礼小学校6年生、外国語科参観（11月20日）
「道案内をしよう」研究協議、中学校教員が小学生のグループ活動に参加
関西外国語大学 教授による講話
「中学校の英語科を見通して、小学校で体験させておきたいこと」

③小学生と中学生の交流授業

- ・小学校4年生と中学校1年生の交流授業（7月14日）
「小学生による小学校の先生クイズ・中学生による Who am I?クイズ」
- ・小学校6年生と中学校3年生の交流授業（12月8日）
「中学生による、中学校の先生と部活動紹介」
- ・小学校5年生と中学校2年生の交流授業（2月10日）
「小学生による”What’s this?”クイズ・中学生による小学生の好きなものランキング調査」

○高等学校との連携

- ①中学校におけるTT（10月2日）3年生A・B班授業「高校生による学校紹介ビデオ・クラスメートの悩み相談 It is important for you to ~ .」
- ②高等学校での授業参観（12月11日）1年生5・6H「高知の食を売り込もう！」

- 中学校における高等学校教員とのTTでは、卒業生がビデオに出演し、英語で学校紹介をしてくれたことがよかった。しかし、授業の中で使った基本表現に絡めて「高等学校に進む準備としてどのようなことをするのが大切か、又は大切だと思うか」について高校生の立場と中学生の立場で考えたことを交流させるなどの工夫があったらよかった。高等学校とは距離が遠いため、交流授業を行うことは難しいが、ビデオや書面での交流は可能であると思う。

◇先進校視察

○京都市立大宅小中学校視察

- 11月16日（月）大宅中学校1年生・2年生授業参観、事業説明、質疑応答
- 11月17日（火）大宅小学校6年生授業参観、事業説明、質疑応答

◇研究成果の発信・普及・検証

○公開授業

- ①久礼中2年生B班（6月12日）Unit 3 “My Future Job”
講師：関西外国語大学 教授 講話：「授業スタンダードを基盤とした授業改善」
- ②久礼中2年生A班（1月21日）Unit 7 “My Favorite Movie”
講師：関西外国語大学 教授 講話：「外国語における小中連携について」

- 関西外国語大学教授を講師として招へいし、授業改善を行っている。生徒への課題設定を高くすること、ゴールの生徒像を持つこと、ノート指導をしっかりとすることなどを課題として取り

組んでいきたい。

○県連絡協議会

- ①第1回連絡協議会（6月30日）日章小学校4年生・6年生授業参観、事業説明、質疑応答
- ②第2回連絡協議会（12月11日）高知西高等学校1年生授業参観、事業説明、質疑応答
- ③第3回連絡協議会（2月16日）大豊町 予定

○校内掲示物や英語科通信

- ①高知新聞「Let's えいGo!」の校内掲示
- ②生徒英作文作品の校内掲示“*We enjoyed our school trip!*”（中2）
“*Where do you want to go?*”（中2：久礼中、上ノ加江中、大野見中）
※久礼中の作品は上ノ加江中と大野見中にも掲示し町内で作品交流
“*A piece of Japanese culture*”（中3）、“*My star*”（中3）
- ③通信“*English news*”（学期に1回）

●英語科通信の発行回数を増やすこと

高知西高等学校

◆円滑な小中高接続を目指したCAN-DOリスト形式での学習到達目標の研究

- ・異校種の学習到達目標について、理解する機会をもてなかったという昨年度の反省をふまえ、8月に南国市の小中学校のCAN-DOリスト研究会に参加し検討した。高知西高校は本年度よりSGHの指定を受けている。また新しく開校される県立中等高等学校においては国際バカロレアコース設置に向けて準備を進めているところであるが、これらのことを考えたとき、県内唯一の英語科をもつ学校として、特に英語教育に関して担っている役目は大きいと考える。現在よりも高いゴール設定をして取り組んでいくことが求められており、現在その詳細のカリキュラム作りをしているところである。そのため、CAN-DOリストの作成も容易ではなかった。汎用性のあるものにするため、他地域で異なる課題を抱える岡豊高校にも参加していただき意見交換できたことは非常に有難かった。3つの校種が揃ったことで、そのギャップの大きさや互いの指導法、理想とする英語ユーザー像等をより一層具体的にイメージすることができた。CAN-DOリスト作成は困難を極めたものの、非常に意義深い検討会となった。
- ・今後も継続して検討会をもつ必要があるが、実際の授業者としての経験の有無が大きく影響する。校種間交流の機会を増やす工夫をしていきたい。

◆教科書の単元構想の研究

- ・4技能を統合した活動、オーセンティックな場面設定とそれを活かした言語活動、パフォーマンステストに関して3年間で段階的に指導を重ねていけるよう計画している。今後は、CAN-DOリストとの関連、外部試験との関連なども整理しながら指導していく必要がある。

◇強化地域内の小中学校との連携

- ・小学校の授業参観・研究協議への参加（年間2回）
- ・中学校の授業参観・研究協議への参加（年間2回）
- ・高等学校で研究授業の実施（年間1回）
- ・小中高でのCAN-DOリスト検討会（1月現在では1回）
- ・小中での授業では、高校生や留学生による英語での高校紹介DVDを作成。その際、既習事項やねらいの共有など事前に行うことで異校種での授業を具体的にイメージすることができた。会議の場ではなく、このような場面での意見交換が互いの理解を深めることにつながりやすい。
- ・事後には、小学校の児童と高校教員、ALTとの間で英語または日本語での手紙のやりとりなども行われた。これまでに小中学校訪問を経験していない高校教員、ALTも3学期の試験期間中などを活用して訪問することを希望している。

◇研究成果の発信・普及

- ・研究授業及び研究発表会「まなび21フォーラム」

(6) 評価計画 ※平成27年度新規採択件については、第一年次から第三年次まで記載すること。

○第一年次～第四年次、校種別

小学校

- 【一年次】研究の方向性、計画などから評価を行う。
- ・年に2回（5月、1月）、児童・教職員を対象に意識調査を実施し、情意面、英語の力について、研究の成果・課題を把握し、研究の方向の妥当性を検討する。
 - ・小5・6を対象に児童英検を実施し（10月）、研究の成果を検証する。
- 【二年次】教育課程から評価する。
- ・年に2回（5月、1月）、児童・教職員・保護者を対象に意識調査を実施し、情意面、英語の力について、研究の成果・課題を把握し、研究の方向の妥当性を検討する。
 - ・小5・6を対象に児童英検を実施し（12月）、研究の成果を検証する。
 - ・研究の内容を教育課程から検証・考察する。
- 【三年次】教育課程から評価する。
- ・年に2回（5月、1月）、児童・教職員・保護者を対象に意識調査を実施し、情意面、英語の力について、研究の成果・課題を把握し、研究の方向の妥当性を検討する。
 - ・小5・6を対象に児童英検を実施し（12月）、研究の成果を検証する。
 - ・研究の内容を教育課程から検証・考察する。
- 【四年次】児童の変容から成果や課題を評価する。
- ・年に2回（5月、1月）、児童・教職員・保護者を対象に意識調査を実施し、情意面、英語の力について、これまでの研究の成果と課題を考察する。
 - ・小5・6を対象に児童英検を実施し（12月）、研究の成果と課題を考察する。
 - ・研究の経過の記録や客観的な分析により、研究そのものについて評価する。

中学校

- 【一年次】研究の方向性、計画などから評価を行う。
- ・年に2回（5月、1月）、生徒・教職員を対象に意識調査を実施し、情意面、英語の力について、研究の成果・課題を把握し、研究の方向の妥当性を検討する。
 - ・高知県学力定着状況調査（1月）、標準学力調査等（4月）の結果から分析し、学力状況を把握し、研究の方向の妥当性を検討する。
- 【二年次】教育課程から評価する。
- ・年に2回（5月、1月）、生徒・教職員を対象に意識調査を実施し、情意面、英語の力について、研究の成果・課題を把握し、研究の方向の妥当性を検討する。
 - ・高知県学力定着状況調査（1月）、標準学力調査等（4月）の結果から分析し、学力状況を把握し、研究の方向の妥当性を検討する。
 - ・研究の内容を教育課程から検証・考察する。
- 【三年次】教育課程から評価する。
- ・年に2回（5月、1月）、生徒・教職員を対象に意識調査を実施し、情意面、英語の力について、研究の成果・課題を把握し、研究の方向の妥当性を検討する。
 - ・高知県学力定着状況調査（1月）、標準学力調査等（4月）の結果から分析し、学力状況を把握し、研究の方向の妥当性を検討する。
 - ・研究の内容を教育課程から検証・考察する。

高等学校

【四年次】生徒の変容から成果や課題を評価する。

- ・年に2回（5月、1月）、生徒・教職員を対象に意識調査を実施し、情意面、英語の力について、研究の成果・課題を把握し、研究の方向の妥当性を検討する。
- ・高知県学力定着状況調査（1月）、標準学力調査等（4月）の結果から分析し、学力状況を把握し、研究の方向の妥当性を検討する。
- ・研究の経過の記録や客観的な分析により、研究そのものについて評価する。

【一年次】研究の方向性、計画などから評価する。

- ・年に2回（4月、2月）、生徒・教員対象のアンケート調査を実施し、情意面、指導体制などについて、研究の成果・課題を把握し、研究の方向性の妥当性を検討する。
- ・学力定着把握検査（4月、9月）の結果を分析し、学力状況を把握し、研究の妥当性を検討する。
- ・英語検定の取得率により、外部指標による生徒の英語力の定着状況を把握する。

【二年次】学習到達目標から評価する。

- ・年に2回（4月、2月）、生徒・教員対象のアンケート調査を実施し、情意面、指導体制などについて、研究の成果・課題を把握し、研究の方向性の妥当性を検討する。
- ・学力定着把握検査（4月、9月）の結果を分析し、学力状況を把握し、研究の妥当性を検討する。
- ・英語検定の取得率により、外部指標による生徒の英語力の定着状況を把握する。

【三年次】学習到達目標から評価する。

- ・年に2回（4月、2月）、生徒・教員対象のアンケート調査を実施し、情意面、指導体制などについて、研究の成果・課題を把握し、研究の方向性の妥当性を検討する。
- ・学力定着把握検査（4月、9月）の結果を分析し、学力状況を把握し、研究の妥当性を検討する。
- ・英語検定の取得率により、外部指標による生徒の英語力の定着状況を把握する。

【四年次】生徒の変容から評価する。

- ・年に2回（4月、2月）、生徒・教員対象のアンケート調査を実施し、情意面、指導体制などについて、研究の成果・課題を把握し、研究の方向性の妥当性を検討する。
- ・学力定着把握検査（4月、9月）の結果を分析し、学力状況を把握し、研究の妥当性を検討する。
- ・英語検定の取得率により、外部指標による生徒の英語力の定着状況を把握する。

○平成27年度の進捗状況・課題

久礼小学校

教育課程から評価する。

- ・年に2回（5月、1月）、生徒・教職員を対象に意識調査を実施し、情意面、英語の力について、研究の成果・課題を把握し、研究の方向の妥当性を検討する。

〈5月実施 【教職員】〉

1. 外国語活動を進めるうえで、次の項目は十分満たされているか。		肯定的評価
①	外国語活動の在り方についての理解	92%
②	学校全体での組織的な取組・教員の協力体制	100%
③	授業研究などの校内研修の在り方	100%
④	年間指導計画の作成	100%
⑤	指導案の作成や授業展開の仕方	100%
⑥	指導者の会話力や語彙力など	62%
⑦	学習評価についての理解	70%
⑧	授業で使うカードなど、教材、教具の準備	100%
⑨	パソコンや電子黒板など、機器の活用	80%
⑩	「Hi, friends!」の活用	92%
⑪	ALTとの打ち合わせ	85%
⑫	授業中のALTとのコミュニケーション	92%
⑬	保護者への周知、外国語活動に対する保護者の理解	15%
⑭	小学校間の連携	15%
⑮	小学校と中学校の連携	85%
⑯	小中の系統的なカリキュラムの作成	54%
2. 外国語活動に対する意識		肯定的評価
①	おおよそのイメージはつかんでいる	77%
②	児童と一緒に楽しんでいる	85%
③	自信をもって指導している	39%
④	準備などに負担感がある	38%
⑤	英語が苦手である	85%
3. 外国語を使うことで児童に変容が見られますか。		肯定的 80%
4. 外国語活動を行うことで、具体的にどのような変容が見られますか。 <ul style="list-style-type: none"> ・積極的にコミュニケーションをとり楽しんでいる。 ・外国語に親しみ、元気よく英語の歌を歌うようになった。 ・外国語の授業以外でも習った単語やフレーズが出てくる子供が増えてきた。 ・表情が豊かで反応が良い。 ・楽しんで英語であいさつしたり、ALTに話しかけたりしている。 ・アイコンタクト、スマイル、ジェスチャー、クリアボイスが全校に定着し、声かけができるようになった。 ・反応が英語でできるようになった。 ・聞く力がついた。 		
5. 今後、校内研修で取り上げたい内容はどんなことですか。 <ul style="list-style-type: none"> ・ Classroom English ・めあてを達成するのに有効なチャンツ、ゲームなどの学習 ・評価の在り方・日常生活で付ける英語表現の具体例・見取りの仕方・他校の実践例 ・他校との実践交流・国の方向性の確認 		

(アンケートの分析) より ○成果 ●課題

○肯定的な項目は「外国語活動の在り方についての理解」、「協力体制」、「校内研修の在り方」、「年間指導計画」、「指導案の作成や授業展開の仕方」、「授業で使うカードなど、教材、教具の準備」、「Hi, friends!の活用」及び「授業中のALTとのコミュニケーション」である。前年度の実践者の多くが今年度も勤務していることや、外国語教育実践集録を参考にしながら実践できることが主な理由と思われる。

○教科部、企画会を中心に、組織的に機能しており、外国語担当教員が昨年度の課題を熟知し、研究開発できる基盤ができてきている。このため、協力体制もより推進され実践の方向性が明確になってきている。

○結果の数値が低い項目「保護者の理解」に関しては、昨年度の課題に基づき、参観日での公開授業や、校長室だより・学級通信での啓発、学校行事における学習発表、学校運営協議会等の機会を活用しての周知等、理解を図っている。

○指導者が「自信をもって、苦手意識を持たず」外国語教育を行えるように研修を行っている。

〈 参照：イ（２） 教員の授業力・英語力の向上〉

- 本年度の外国語活動と外国語科の評価の共通点と相違点の研究経過報告を校内研修として行い共通理解を図る必要がある。
- 「小学校間連携」に関しては、町内各校がお互いの校内研修への参加を呼びかけ、交流しているが、十分な連携はできていない。
- 小中の系統的なカリキュラム作成を担当者中心に修正したものを全教員で共有し実践していく必要がある。

（５月実施【４・５・６年生 児童】）

1 外国語活動の授業は好きですか。	94%	2 授業に進んで参加していますか。	87%
3 内容をどれくらい理解していますか。	78%		
4 授業の中で楽しいと思うことはどのようなことですか。			
① 英語でゲームすること	96%	② 英語で友だちと会話すること	90%
③ 英語で学校の先生と会話すること	87%	④ 英語で外国人の先生と会話すること	91%
⑤ 外国のことについて学ぶこと	93%	⑥ 英語で歌を歌ったりチャンツを言ったりすること	92%
⑦ 日本語と英語の違いを知ること	94%	⑧ 英語で自分のことや意見を発表すること	77%
⑨ 英語で友だちや先生、他の人の意見を聞くこと	89%	⑩ 英語の絵本を読んでもらうのを聞くこと	59%
⑪ あなたは英語が好きですか。	91%	⑫ あなたは英語を使えるようになりたいですか。	97%
⑬ あなたは英語は大切だと思いますか。	94%		
5 英語を使ってしてみたいことは何ですか。			
① 外国の人と話す。	88%	② 外国の人と友だちになる。	87%
③ 外国の映画を字幕なしで見る。	52%	④ 英語で書かれた本を読む。	67%
⑤ 電子メールなどで外国の人に英語で手紙を書く。	49%	⑥ 英語の歌を聴いたり歌ったりすること	83%
⑦ 英語を使う仕事をする。	43%	⑧ 海外旅行に行くこと。	77%
⑨ 英語で日本の文化を紹介すること。	61%		

（アンケートの分析）より ○成果 ●課題

- ゲーム、歌、チャンツを中心に全身を使った活動で楽しく活動できている児童が多い。
- 英語の必要性を感じ、授業に積極的に取り組む雰囲気づくりができています。
- 会話したり、他の意見を聞いたりすることには肯定的な児童がいる一方で、自分のことを発信ことに苦手意識をもっている児童がいる。
- 授業の中で、絵本の読み聞かせを聞く機会が少ない。
- 「英語を使ってしてみたいこと」の項目において、全体的に数値が低く、「学ぶこと」が「今後自分から使っていくことに」つながっていない。
- ・小５・６を対象に児童英検を実施する。（未実施１月予定）

○平成２７年度の進捗状況・課題

久礼中学校

- ・年に２回（５月、１月）、生徒・教職員を対象に意識調査を実施し、情意面、英語の力について、研究の成果・課題を把握し、研究の方向の妥当性を検討する。
- ・高知県学力定着状況調査（１月）、標準学力調査等（４月）の結果から分析し、学力状況を把握し、研究の方向の妥当性を検討する。

- ・標準学力調査（毎年4月実施）の正答率 《省略》
- ・高知県学力定着状況調査（毎年1月実施）の正答率 《省略》

●昨年度1月に行った高知県学力定着状況調査では、中1が3技能全てで県平均を上回り、中2でも2技能で上回った。しかし、今年度4月に行った標準学力調査では中2の「書くこと」が全国平均を7ポイント下回っており、昨年同様「書くこと」に課題があり、重点的に取り組む必要がある。

- ・中学3年生の英語検定3級以上の取得率

H.26年度	10.0%
H.27年度	37.5%

- ・アンケート結果より {肯定的回答の割合}

		中1	中2	中3	全体
1. 英語の学習が好きか	5月	86%	56%	66%	73%
	1月				
2. 英語の学習に最後まであきらめず取り組んでいるか	5月	72%	66%	72%	70%
	1月				

●英語検定3級以上の受験者の合格率が46%にとどまった。「H29までに英語検定3級の取得率50%をめざす。」という目標を達成するためにも、取り組みを強化したい。教科書に載っていない語句や表現をJTEやALTのスマールトークで使うことで、知識の幅を広げさせることが大切である。また、教科書以外の英文を読んでTFを行うなどの活動を続けていく必要がある。

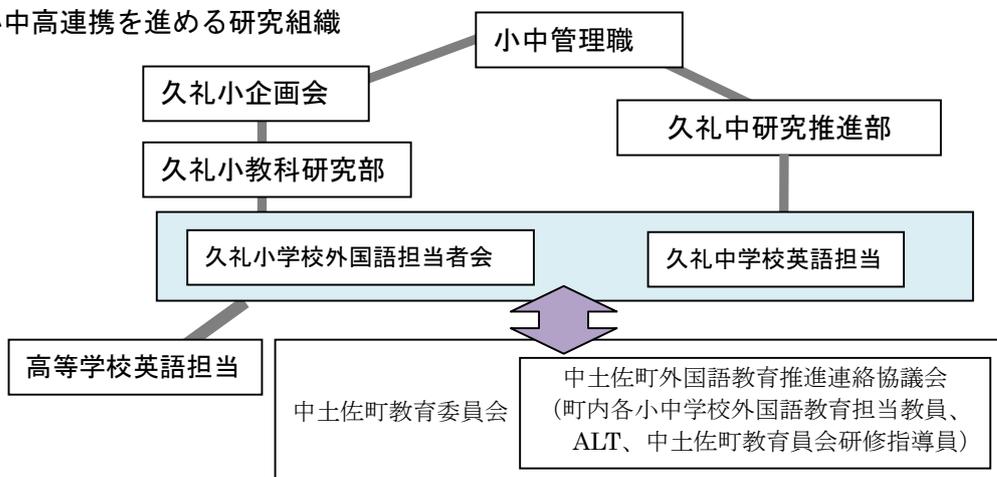
高知西高等学校

- ・今年度2回目の生徒対象のアンケートを実施し、情意面、指導体制などについて、研究の成果・課題を把握し、研究の方向性の妥当性を検討していく。
- ・学力定着把握検査（4月、9月）の結果や英語外部試験等を分析し、学力状況や定着を把握し、研究の妥当性を検討する。

4. 研究組織

(1) 研究組織の概要

1. 小中高連携を進める研究組織



(2) 運営指導委員会

①活動計画

○運営指導委員と各地域との関わり

- ・運営指導委員は、研究校を会場とした、年間3回実施する運営指導委員会に出席する。
- ・運営指導委員は、3地域ともに関わり、地域ごとの指導助言だけではなく、本事業における進捗状況と県内他校への普及等、県全体の英語教育に関して、指導助言を行う。
- ・運営指導委員は、研究校での公開授業や研究協議会に適宜参加し、適切な指導・助言を行う。
- ・3高等学校のうち1校（高知西高校）は、2地域における小・中学校区との連携を図り、新規1校は、1地域における小・中学校区と連携を図っていく。

○平成27年度の進捗状況・課題

本年度は、年間3回の運営指導委員会及び連絡協議会を予定していたが、形式的なものよりも実質的な担当者会を充実するように、運営指導委員会を2回実施し、小中高の担当者が交流できるように連絡協議会を3回もつようにした。そこでは、高等学校教員が小・中学校に赴き、授業交流を行ったことを基に CAN-DO リスト形式の学習到達目標を協議したり、互いの指導内容・指導方法について、情報交換したりできた。

次年度には、さらに異校種で同じ言語材料や表現を系統的に扱うのかを協議できる機会を持ちたいと考える。

5. 年間事業計画

月	強化地域拠点校の取組	運営指導委員会
4月	◆公開授業、研究協議、情報交換（久礼中：4月30日） <input type="checkbox"/> 標準学力調査（久礼中：4月21日） <input type="checkbox"/> 生徒意識調査実施（久礼中：1年生4月14, 17日） <input type="checkbox"/> 学力定着把握検査及び生徒・教職員意識調査実施（高等学校） ・県教委指導主事による支援訪問（久礼中：4月23日）	
5月	<input type="checkbox"/> 児童・教職員意識調査（小・中学校） <input type="checkbox"/> 生徒意識調査実施（久礼中：2, 3年生6月3, 5日） ・県教委指導主事による支援訪問	
6月	◆公開授業、研究協議、情報交換（久礼中：6月12日） 講師：関西外語大学教授 ・県教委指導主事による支援訪問（久礼小：6月9日） （久礼中：6月2日） ◇第1回県連絡協議会（日章小：6月29日）	第1回運営指導委員会
7月	<input type="checkbox"/> 教職員意識調査実施（久礼中） ・小学4年生と中学1年生の交流授業（久礼小：7月14日）	
8月	・指導主事による支援訪問（久礼小：8月21日）（久礼中：8月3日）	

9月	□学力定着把握検査（高等学校）	
10月	◆公開授業、研究協議、情報交換 ・県教委指導主事による支援訪問（久礼中：10月2,19日） ・高知西高等学校交流授業（久礼小：10月16日） （久礼中：10月2日）	
11月	◆公開授業、研究協議、情報交換（久礼小：11月11日） 講師：関西外語大学教授 ・県教委指導主事による支援訪問（久礼小：11月11日） （久礼中：11月9日） ・先進地校視察 京都大宅小中学校（久礼小中：11月16,17日） ・鳴門市立林崎小中学校公開授業参加（久礼小中：11月26日）	第2回運営指導委員会
12月	◇第2回県連絡協議会（高知西高等学校：12月11日） ◆高等学校公開授業・研究協議・情報交換（高知西高校：12月11日） ・小学6年生と中学3年生の交流授業（久礼中：12月8日）	
1月	◆公開授業、研究協議、情報交換（久礼小：1月20日） （久礼中：1月21日） 講師：関西外語大学教授 □高知県学力定着状況調査実施（久礼中：1月8日） □児童英検 □生徒・教職員意識調査実施 ・県教委指導主事による支援訪問（久礼小：1月15日） （久礼中：1月18日）	
2月	◇第3回県連絡協議会（大豊町：2月16日） ・県教委指導主事による支援訪問（久礼小：2月18日） （久礼中：2月15,22日） ・小学5年生と中学2年生の交流授業（2月10日） ・全国小学校英語活動実践研究大会参加（2月12,13日） □児童・教職員意識調査	第3回運営指導委員会
3月		
【その他の取組】※あれば記入		

平成28年1月21日

事業経過報告書

文部科学省初等中等教育局長 殿

都道府県教育委員会等名 高知県教育委員会
 所 在 地 高知県高知市丸ノ内1丁目7番52号
 代 表 者 職 氏 名 高知県教育長 田村 壮児

平成27年度英語教育強化地域拠点事業における事業経過報告書を提出します。

1. 事業の実施期間

委託を受けた日 ～ 平成28年3月31日

2. 強化地域拠点の学校名 (学校数が多い場合は欄を追加すること)

ふりがな	こうちけんりつ おこうこうとうがっこう	ふりがな	とだ ひろし
学校名	高知県立岡豊高等学校	校長名	戸田 浩
ふりがな	おおとよちょうりつおおとよちょうちゅうがっこう	ふりがな	かわさき つよし
学校名	大豊町立大豊町中学校	校長名	川崎 剛
ふりがな	おおとよちょうりつおおとよしょうがっこう	ふりがな	たかいし あつし
学校名	大豊町立おおとよ小学校	校長名	高石 敦

3. 研究内容

(1) 研究開発課題

国際化時代に必要なコミュニケーション能力を育成するため、小学校第3・4学年で外国語活動を、第5学年から教科としての「外国語科」を新設した場合の教育課程、指導及び評価方法並びに中学校・高等学校の教育課程との円滑な接続の在り方についての研究開発

(2) 研究の概要

本強化地域における外国語教育は、保育所へCIRが訪問するなど、保・小から行われており、中学校第3学年での町事業でのオーストラリア研修が実施されている。児童生徒は、外国語活動や英語の授業に楽しく参加しているが、積極的に英語を使って、コミュニケーションを取ろうとする態度はまだ十分でない。また、小学校で培ったコミュニケーション能力の素地を中・高等学校において生かし、児童生徒の学びの連続性や円滑な接続した指導に課題があると考え。

このことから、本強化地域においては、小学校第3・4学年で外国語活動を、第5学年から教

科としての「外国語科」を新設することで、学習内容の系統性、指導方法の継続性が生まれ、小中高の円滑な接続と4技能の発達段階に応じた育成を図ることができる考える。

また、本地域は、大豊町の1小1中と岡豊高等学校において、連絡協議会や教員間の授業交流を行いながら、学習内容の系統性、指導方法の継続性を目指したカリキュラムを作成し、小中高の連携の充実を図っていく。

(3) 現状の分析と仮説等

①現状の分析と研究の目的

本強化地域では、英語教育に力を入れ保・小・中を通して英語に親しみ英語に触れる機会を設けているが、大豊町中学校の生徒には、英語学力の定着状況に二極化が見られ、標準学力検査結果からも、読解力、思考力、表現力総じて課題がある。また、英語によるコミュニケーション活動に対し消極的な児童生徒も多く、表現活動を苦手とする傾向がある。そのため、国際社会を生きる児童生徒に、確かな英語力と豊かなコミュニケーション能力を身に付けさせたいと考える。

本研究では、小中高の学習内容の系統性、指導方法の継続性を図り、より滑らかな接続と小学校段階での発達段階に応じた「聞くこと」「話すこと」を重点に「読むこと」「書くこと」を含む4技能を育成する研究を行う。

②研究仮説

小学校での外国語科から中学校での英語学習への接続や評価方法等を、児童生徒の発達段階や中・高等学校の接続を見据えて作成し実践することで、小・中・高等学校における英語教育の継続性のある学びが生まれ、児童生徒の英語を使ったコミュニケーション能力が向上するであろう。

具体的には、①小学校「外国語科」のカリキュラムの作成（「読むこと」「書くこと」の導入時期と方法の研究を含む）②児童生徒の意欲を高める学習評価の在り方(CAN-DO リストの作成)③小中高をつなぐ系統的なカリキュラム作成④中学校で実践的コミュニケーション能力を高める指導内容の研究を深める。

③研究成果の評価方法

- 小中高の効果的な接続を図るカリキュラムの作成
 - 児童生徒・教職員への意識調査（年2回）
 - 標準学力調査、高知県学力定着状況調査及び英語検定の実施
- < H29までに英語検定 3級 取得率50%をめざす（中学校） >

(4) 研究開発型

	開始学年及び週当たり授業時数コマ			
	第一年次	第二年次 (H27)	第三年次 (H28)	第四年次 (H29)
①小学校 外国語活動型	第 学年 コマ	第3・4学年1コマ 第5・6学年2コマ	第3学年 1コマ	第3学年 1コマ
②小学校 教科型	第 学年 コマ	第 学年 コマ	第5学年 2コマ	第5学年 2コマ

(5) 研究計画

○第一年次～第四年次、校種別	
おとよ小学校	<p>一年次【平成二十七年次】</p> <p>○第3・4学年 外国語活動 年間35時間<使用教材“Hi, friends!1”及び自主教材> ○第5・6学年 外国語活動 年間70時間<使用教材“Hi, friends!1・2”></p> <p>◆学校全体で取り組み、効果的な小中連携を図るための組織を構築する。 ◆外国語活動の指導の充実（時間増分）を図る。 <例>次年度に向けたコミュニケーション能力育成や学習評価の在り方の工夫を行う。 ◆教員の指導力向上のための校内研修の充実を図り、組織体制を構築する。 <例>教員の授業力や英語力向上についての研修計画を立てる。 ◆「外国語科」の新設準備 <例>「外国語科」における学習内容・評価・評定等の在り方の確認 ・教科カリキュラムの研究及び編成 ・CAN-DO リスト作成</p> <p>◇先進校視察 ◇強化地域内の中学校及び高等学校との連携 ・中学校での年間3回の授業参観 ・高等学校での年間1回の授業参観 ・高等学校教員・中学校教員とのTT</p> <p>◇外国語教育担当教員の位置付け（加配教員） ・国の推進リーダー研修参加と成果普及 ・県事業コア・ティーチャー育成プログラム受講</p> <p>◇研究成果の発信・普及・検証 ・県事業における年間3回の公開授業及び県連絡協議会</p>
	<p>二年次【平成二十八年次】</p> <p>○第3・4学年 外国語活動 年間35時間 <使用教材“Hi, friends!1”及び自主教材> ○第5・6学年 外国語科 年間70時間 <使用教材“Hi, friends!2”及び文部科学省H26年度配付予定の教材></p> <p>◆検証した一年次の研究の成果と課題を踏まえて、実践内容を改善する。 ◆「外国語科」の新設 <例>教科カリキュラムの運用・修正 <例>児童の発達段階や意欲を高める学習評価の在り方についての研究 振り返りシート作成、評価方法（評価テスト作成）評価の仕方についての共有</p> <p>◇強化地域内の中学校及び高等学校との連携 ・中学校での年間3回の授業参観 ・高等学校での年間1回の授業参観 ・高等学校教員・中学校教員とのTT</p> <p>◇外国語教育担当教員の位置付け（加配教員） ◇研究成果の発信・普及・検証 ・県事業における年間3回の公開授業及び県連絡協議会</p>
	<p>三年次【平成二十九年次】</p> <p>○第3・4学年 外国語活動 年間35時間 <使用教材“Hi, friends!1”及び自主教材> ○第5・6学年 外国語科 年間70時間 <使用教材“Hi, friends!2”及び文部科学省H26年度配付予定の教材></p> <p>◆検証した二年次の研究の成果と課題を踏まえて、実践内容を改善する。 ◆発達段階に応じた「読むこと」「書くこと」の指導の系統について研究する。 <例>発達段階と学習経験を踏まえた「読む・書く」指導の開始時期と指導内容の系統表を作成する。（アルファベットの認識、大文字小文字の導入から小学校段階での指導について）</p> <p>◇強化地域内の中学校及び高等学校との連携 ・中学校での年間3回の授業参観 ・高等学校での年間1回の授業参観 ・高等学校教員、中学校教員とのTT</p> <p>◇外国語教育担当教員の位置付け（加配教員） ◇研究成果の発信・普及・検証 ・県事業における年間3回の公開授業及び県連絡協議会</p>

○平成27年度の進捗状況・課題

◆学校全体で取り組み、効果的な小中連携を図るための組織を構築する。

〈進捗状況〉

○校内研究体制構築

- ・授業研究部に外国語教育担当が入り学校全体の外国語教育の進め方等について企画立案を行う。
- ・県教育委員会指導主事による支援訪問を定期的に受け、全教職員で外国語科・外国語活動について研修を行った。
- ・外部講師を招いて、全教職員参加の公開授業・研究協議・講師による講話を行い、外国語教育についての情報共有や研究の方向性について確認する研修を行った。

○小中連携の推進

- ・町外国語教育担当者会を開き、保育も含めた小中一環での外国語教育推進に向け協議している。
- ・小学校外国語教育担当教員が、中1の授業に入り、単元ごとにT1を入れ替わり担当している。
- ・中学校外国語科担当教員は、年間数回小学校の複数学年の授業に入りT2を担当するなど、相互に授業に入り見合うことによる情報交換や、効果的な指導方法の研究を進めている。

〈課題〉

- ・小規模校であり、校内研究組織も一人が複数分掌を兼ねる少人数構成であるため、役割分担をしづらい面がある。外国語教育について全校挙げての研究開発の取組とするために、研究組織の再構築が必要である。

◆外国語活動の指導の充実（時間増分）を図る。

○単元末のコミュニケーション活動・表現活動

- ・Hi, friends! 1・2 を使用しながら、使える英語を目的とした単元計画を立案。
- ・地域を題材とした自主教材活用。単元をつなぎ、既習表現を活用した表現の幅を増やす工夫。
- ・Hi, friends! Plus を補助的に活用し、文字への興味付けを行い、読む・書く活動へとつなげた。
- ・表現活動で作成した成果物等は、校内に掲示し、他学年に見せることで交流した。

第5学年

Lesson2 I'm happy.	ジェスチャー、気持ちを表す表現を使って、一コマ漫画作成。
Lesson3 How many?	絵本「はらぺこあおむし」を活用。地元産の食べ物をいくつ食べるか想像して表現。校内にあるものの数を尋ねるクイズ作成。
Lesson4 I like apples.	好きなもの紹介スピーチ 中学生スピーチ映像交流
Lesson5 What do you like?	T シャツデザイナーとして、友達に好みを尋ねデザインをしプレゼント。好きなものをインタビューした後、なりきり他己紹介から“私は誰でしょう。”クイズ。
Lesson6 What do you want?	Lesson5 で作った T シャツに、友達に送りたいアルファベットで作ったメッセージを書き加える。
Lesson7 What's this?	クイズ大会

第6学年

Lesson1 Do you have "a"?	音と綴りへの意識を高める活動。名前アリタレーションや校内案内表示作成。
Lesson 2 When is your birthday?	校内行事の日程を知り、英語で日付とその日をどんな日にしたいかを表現するおおとよ小 calendar 作成。
Lesson 3 I can swim.	大豊町内の様々な場所で、できることを紹介し発表。

Lesson 4 Turn right.	大豊町内にある建物や、あったらいいと思う建物などを考え、未来の大豊町マップを作り、案内や建物の紹介。
Lesson 5 Let's go to Italy.	仮想ワールドテーマパークを設定し、どの国のコーナーで体験したり、昼食を食べたいかなど既習表現を使って対話する。おすすめの国、そこでしたいことなどのプレゼンテーションの発表。
Lesson 6 What time do you get up?	年齢・地域による生活時間の違いを知るための中学生へのインタビュー、Skype を使った大阪の小学生へのインタビュー。want to を使った自分の生活改善計画発表。

○帯活動の工夫・活動の充実

- ・帯活動として取り組んだもの

CIR's talk / Today's phrase / Small talk / Pair drill / Mini quiz

* Today's phrase は、3～5語からなる短く使える表現を掲載した新聞のコーナーを活用。

- ・活動の充実

絵本読み聞かせ / コミュニケーション活動で使う対話をチャンツで練習 /

If タイム設定—“もしも…なら”と場面設定を工夫し、想像力を使って表現 /

* 班活動や小グループでの活動を取り入れ、協働学習。

○その他の取組

異学年・異校種交流・県外小学生との交流・外国の方との交流

- ・スピーチ発表映像での交流 (5・6年生) 小中代表児童生徒のスピーチ映像交流
- ・インタビュー活動 (6年生) 中1・中3への生活時間インタビュー
- ・関西大学初等科との交流授業 (6年生) 関西大学初等科5年生児童と Skype を通して交流
- ・合同授業 (5・6年生) オーストラリア ヘリベリー校研修生との交流
- ・インターナショナル DAY (全学年) 5カ国の文化体験

〈課題〉

- ・5・6年生の70時間という時数を、本年度週2コマで実施してきているが、様々な行事等との兼ね合いから週2コマ実施が厳しい状況にある。来年度どのような時間での実施が効果的か検討する。
- ・文字指導を計画的に、継続的に実施していく。

◆教員の指導力向上のための校内研修の充実を図り、組織体制を構築する。

〈進捗状況〉

○校内研修

- ・関西大学初等部 公開授業及び教諭による講話

第1回(6月2日) 6年生公開授業, 講話「外国語活動の授業づくり」

第2回(12月10日) 6年生公開授業, 講話「評価について」

本校6年生と関西大学初等部5年生との Skype 交流授業

- ・中部教育事務所指導主事による支援訪問

第1回(6月24日) 講話「英語教育強化地域拠点事業」の趣旨 小学校外国語活動の動向
指導案検討

第2回(7月8日) 5年生公開授業, 研究協議, 講話

第3回（11月5日） 町教研研究発表会 4年生・6年生公開授業 研究協議

第4回（12月9日） 研究への指導助言

〈課題〉

- ・学級担任の多くが、教員自身の英語運用能力を課題と考えているため、クラスルームイングリッシュや模擬授業などの研修等を行う。

◆「外国語科」の新設準備

〈進捗状況〉

○教科カリキュラムの編成

- ・外国語科の目標・評価規準を設定。年間指導計画，評価計画作成。
- ・5・6年生でHi, friends! 1・2を使用することから，中学年では，Hi, friends! 1・2の概要・語彙を学習できるようスパイラルなカリキュラムを作成。
- ・Hi, friends! Plusは補助教材として活用。文字の読み・書きへの興味づけに効果的であるため，引き続きカリキュラムに組み込み活用していく。

○CAN-DO リスト作成

- ・小中高連携による「CAN-DO リスト」形式による到達度目標作成。
各校種での学習指導要領で示されている目標に照らし，4技能でどのような力をいつまでにつけさせたいのか，そのためにどのような指導が必要なのか協議しながら作成した。
- ・各校種のゴールイメージを全教員で共有し，各学年各領域でめざす姿を念頭に置いて，外国語科
・外国語活動の計画，実践をしていくよう共通理解を図った。

〈課題〉

- ・来年度外国語科としての初年度を迎える。計画を常に検証しながら修正を加えてより良い計画実践を目指す。

◇先進校視察

〈進捗状況〉

- ・京都市立大宅小学校への視察 3名
- ・徳島県鳴門市林崎小学校への視察 3名
- ・南国市立日章小学校への視察 9名

ほぼ全員の教職員が視察に行き研修を行うことができた。視察後は，職員会で視察報告会を行い各校の特色ある実践を全教職員で共有することができた。

◇強化地域内の中学校及び高等学校との連携

〈進捗状況〉

○小学校での授業参観及びTT

- ・公開授業 第5学年 単元：“Hi, friends! 1 “ Lesson4 I like apples.
高等学校教員とのTT授業 中学校教員参観
- ・公開授業 第6学年 単元：“Hi, friends! 2 “ Lesson3 I can swim.
中学校教員とのTT
- ・公開授業 第6学年 単元：“Hi, friends! 2 “ Lesson5 Let’ s go to Italy.
中学校教員とのTT

○高等学校での年間1回の授業参観

- ・公開授業 岡豊高等学校第1学年 単元：Lesson 5 Brightening the Future Part 3
Grove English Communication I
小・中学校教員授業参観

〈課題〉

・互いの授業を見合うことは、大変意味があり勉強になる。担当者だけの交流ではなく、学級担任も交流できればより全校的な取り組みとなると思われる。

◇英語・外国語教育担当教員の位置付け（加配教員）

〈進捗状況〉

- (1) 国の推進リーダー研修参加（6月 11月）と成果普及（来年度）
- (2) 県事業コア・ティーチャー育成プログラム受講
コア・ティーチャー対象者ではないことから、年間研修計画の中から3回受講。

◇研究成果の発信・普及・検証

〈進捗状況〉

- ・県事業における年間3回の公開授業及び県連絡協議会
本校（2月16日（火） 実施予定）

〈課題〉

- ・研究成果について、県教育委員会・運営指導委員会より指導助言をいただき、今後の取組を検討していく。

大豊町中学校	一年次 【平成二十七年 度】	<ul style="list-style-type: none"> ◆効果的な小中連携を図るための組織を構築する。 ◆CAN-DO リスト形式の学習到達目標を設定し、4技能別の到達目標の見直しを行う。 ◆「使える英語」を目的とした単元ゴール設定の見直しを行う。 <ul style="list-style-type: none"> 《例》場面設定や既習事項の復習を考えたゴールの工夫 ◇強化地域内の小学校及び高等学校との連携 <ul style="list-style-type: none"> ・小学校での年間2回の授業参観及びTT ・高等学校での年間1回の授業参観 ◇県事業コア・ティーチャー育成プログラム受講 ◇先進校視察 ◇研究成果の発信・普及・検証 <ul style="list-style-type: none"> ・県事業における公開授業及び県連絡協議会
	二年次 【平成二十八 年度】	<ul style="list-style-type: none"> ◆検証した一年次の研究の成果と課題を踏まえて、実践内容を改善する。 ◆小学校のカリキュラムとの円滑な接続を目指した小6一中1の接続プログラムの作成を行う。 ◆高等学校との滑らかな接続を考慮したプログラムを作成する。 ◇強化地域内の小学校及び高等学校との連携 <ul style="list-style-type: none"> ・小学校での年間2回の授業参観及びTT ・高等学校での年間1回の授業参観 ◇先進校視察 ◇研究成果の発信・普及・検証 <ul style="list-style-type: none"> ・県事業における公開授業及び県連絡協議会
	三年次 【平成二十九 年度】	<ul style="list-style-type: none"> ◆検証した二年次の研究の成果と課題を踏まえた研究の成果と課題をまとめる。 ◆授業を英語で行う。 ◆小・中・高等学校との連続性・系統性をもったカリキュラムの作成 ◆小・中・高等学校との接続プログラムを運用する。（第3年次作成） ◇強化地域内の小学校及び高等学校との連携 <ul style="list-style-type: none"> ・小学校での年間2回の授業参観及びTT ・高等学校での年間1回の授業参観 ◇先進校視察 ◇研究成果の発信・普及・検証 <ul style="list-style-type: none"> ・県事業における公開授業及び県連絡協議会

【平成27年度の進捗状況と課題】

◆効果的な小中連携を図るための組織を構築する。

〈進捗状況〉

- ・大豊町外国語教育担当者会をもち、保・小・中一環外国語教育の進め方等について協議をしている。
- ・小学校外国語教育担当教員が、中1の授業に入り、单元ごとにT1を入れ替わり担当し、適宜指導方法についても話をしながら進めている。
- ・中学校外国語科担当教員は、年間数回小学校の複数学年の授業に入りT2を担当するなど、相互に授業に入り見合うことによる情報交換や効果的な指導方法の研究を進めている。

〈課題〉

- ・小学校の児童の実態に合わせて中学校3年間のカリキュラムを見直し、ストラテジーを含めて再考していく。それに合わせ小中9年間を通したカリキュラムについて小学校外国語担当と話し合い、見直ししていく。

◆CAN-DO リスト形式の学習到達目標を設定し、4技能別の到達目標の見直しを行う。

〈進捗状況〉

- ・小中高連携による「CAN-DO リスト」形式による到達度目標の作成するに当たり、小中高の担当教員がそれぞれの学習指導要領で示されている目標に照らし、4技能でどのような力をいつまでにつけさせたいのか、そのためにどのような指導が必要なのか協議しながら作成にあたった。各校種のゴールイメージを全教員で共有し、各学年領域での目指す姿を念頭に置いて計画・実践をしていくよう共通理解を図った。

〈課題〉

- ・CAN-DO リスト形式の学習到達目標に基づいた具体的な4技能及びストラテジーの目標値を検討していく。

◆「使える英語」を目的とした単元ゴール設定の見直しを行う。

〈進捗状況〉

- ・年間計画に沿って授業を組み立てる際、単元でつけたい力を基に、真のコミュニケーションを目的とした言語活動となるように単元ゴールを見直し、単元の始めに提示している。また、単元ゴールに向けてその単元で学習した表現や既習の表現を活用できるように構成を工夫している。

〈課題〉

- ・教科書の単元目標としての言語活動や目標に達するための活動の精選等、単元構想についての研究を行っていく。

◇強化地域内の小学校及び高等学校との連携

〈進捗状況〉

○小学校での授業参観及びTT

- ・公開授業 第5学年 単元：“Hi, friends! 1” Lesson 4 I like apples.
中学校教員参観
- ・公開授業 第6学年 単元：“Hi, friends! 2” Lesson 3 I can swim.
中学校教員 TT
- ・公開授業 第6学年 単元：“Hi, friends! 2” Lesson 5 Let's go to Italy.
中学校教員 TT

小学校の授業を参観及びTTによる授業を行うことで、小学校での指導の様子や、児童の実態・活動の様子等を知ることができ、中学校での指導に生かすことができている。

○中学校での高校教員との TT

- ・公開授業 中学校第3学年 単元：“Sun Shine3” Program3 The 5 Rs to Save the Earth
高校教員2名 TT

中学3年生では、高等学校教員との TT による授業を行った。生徒たちは緊張感をもちながらも高校の先生の自作資料に興味深く聞き、高校の先生の助言を受けながら関心をもって活動に取り組んでいた。

○高等学校での年間1回の授業参観

- ・公開授業 岡豊高等学校第1学年 単元：Lesson 5 Brightening the Future Part 3
Grove English Communication I

小・中学校教員授業参観

高校の授業を参観することは、中学校の出口として中学校の授業を考え、見直していくために有効である。後の協議においても、接続の部分についての意見交換がなされ、中学校のカリキュラムを再考するよい機会となった。

〈課題〉

- ・小学生との交流授業を学年ごとに企画し、実施していく。

◇県事業コア・ティーチャー育成プログラム受講

〈進捗状況〉

- ・第1～4回集合研修参加と研修報告（第4回集合研修時）
- ・県外視察研修参加（秋田県大仙市立大曲中学校 10月27日～30日）

◇先進校視察

〈進捗状況〉

- ・広島市立井口中学校への視察 3名

中学校外国語科担当教員・中学校長・町教育委員会研修指導員が視察に行き、研修を行うことができた。視察後は校内研で視察報告会を行い、視察校の特色ある実践を全教職員で共有する予定である。

〈課題〉

- ・研修会や先進校視察で学んだことを授業実践に生かしていく。

◇研究成果の発信・普及・検証

〈進捗状況〉

- ・県事業における公開授業及び県連絡協議会
- ・大豊町中学校における公開授業及び協議、講話
学級：第1学年 単元：Program 9 A New Year's Visit
講師：高知工科大学 教授

〈課題〉

- ・研究成果について、県教育委員会・運営指導委員会より指導助言をいただき、今後の取り組みを検討していく。

岡豊高等学校	<p>◆円滑な小中高接続を目指した CAN-DO リスト形式での学習到達目標の研究</p> <p>◆教科書の単元構想の研究</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標、指導、評価に一貫性を持たせるよう研究を行う。 ・4技能を統合した活動について研究を行う。 ・オーセンティックな場面設定とそれを活かした言語活動について研究を行う。 ・パフォーマンステストを活用した適切な観点別評価について研究を行う。 <p>◇強化地域内の小中学校との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校の授業参観及び TT・研究協議への参加（年間1回） ・中学校の授業参観及び TT・研究協議への参加（年間1回） ・高等学校で研究授業の実施（年間1回） <p>◇研究成果の発信・普及</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究授業及び研究発表会「まなび21フォーラム」
	<p>◆円滑な小中高接続を目指した CAN-DO リスト形式での学習到達目標の研究</p> <p>◆教科書の単元構想の研究</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標指導、評価に一貫性を持たせるよう研究を行う。 ・4技能を統合した活動について研究を行う。 ・オーセンティックな場面設定とそれを活かした言語活動について研究を行う。 ・パフォーマンステストを活用した適切な観点別評価について研究を行う。 <p>◇強化地域内の小中学校との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校の授業参観及び TT・研究協議への参加（年間1回） ・中学校の授業参観及び TT・研究協議への参加（年間1回） ・高等学校で研究授業の実施（年間1回） <p>◇研究成果の発信・普及</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究授業及び研究発表会「まなび21フォーラム」
	<p>◆円滑な小中高接続を目指した CAN-DO リスト形式での学習到達目標の研究</p> <p>◆教科書の単元構想の研究</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標、指導、評価に一貫性を持たせるよう研究を行う。 ・4技能を統合した活動について研究を行う。 ・オーセンティックな場面設定とそれを活かした言語活動について研究を行う。 ・パフォーマンステストを活用した適切な観点別評価について研究を行う。 <p>◇強化地域内の小中学校との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校の授業参観及び TT・研究協議への参加（年間1回） ・中学校の授業参観及び TT・研究協議への参加（年間1回） ・高等学校で研究授業の実施（年間1回） <p>◇研究成果の発信・普及</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究授業及び研究発表会「まなび21フォーラム」

【平成27年度の進捗状況・課題】

〈進捗状況〉

◆円滑な小中高接続を目指した CAN-DO リスト形式での学習到達目標の研究

・小中高で一貫性のある英語の学習到達目標の設定についての研究を行う。

6月に行われた第1回県連絡協議会の後に、小中高担当者がお互いの学習到達目標について、意見交換を行った。その後、夏季休業中に担当者が本校に集まり、7月に行われた小中でのTTの授業体験を踏まえて、学習到達目標の作成について1回目の話し合いをもった。また、11月に開催した本校での第2回連絡協議会後には、県教委指導主事や他校の先生方に、引き続き参加し

ていただいて研究協議を行い、前回の話し合いの内容について、さらにブラッシュアップすることができたと感じている。課題としては、本校が、コースによって学力差や特色が顕著であるため、学習到達目標も異なることから、どのような基準で目標を設定するのが非常に難しいと感じている。

◆教科書の単元構想の研究

・学習到達目標に照らし合わせて、教科書の各単元を、①各単元の目標設定②言語活動③評価方法という3つの観点で再教材化する方法についての研究を行う。

現在、教科書の単元構想の研究というところまでは充分に至っていない。しかしながら、学年ごとにプランナー（授業案作成者）を中心に、学年担当者間で話し合いを頻繁にもち、パフォーマンステスト（各学期に1，2回実施）を全講座で統一して行うことや、学年のゴールイメージを共有して授業を行うこと等、指導と評価が一体となるような授業づくりを目指して組織的に取り組んでいる。また、英語の基礎学力を身につけさせるため、1年生の入門期指導に力点を置き、中学校から高校の英語学習にスムーズに接続できるような取り組みを試行錯誤しながら実践している。

◇強化地域内の小中学校との連携

- ・小学校の授業参観及びTT・研究協議への参加（年間1回）
- ・中学校の授業参観及びTT・研究協議への参加（年間1回）
- ・高等学校で研究授業の実施（年間1回）

1年生の授業では上述のように、中学校との連携を意識して、入門期指導に”わくわく感を持たせる”ように取り組んでいる。これまでも小学校の外国語活動、中学校からの接続を意識した授業づくりを行ってきたが、本年度、小・中学校と相互の乗り入れ授業を行うことで、実際に小学校の外国語活動の授業や中学校の授業を体感し、児童生徒たちの習熟度を肌で感じる事ができた。また、それぞれの課題についても考える事ができた。課題としては、相互の乗り入れ授業を行うまでに、授業計画や指導方法などお互いに膝を交えて話し合う時間があまりなかったことで、打ち合わせをする時間がもう少しあれば、小中高の教員がそれぞれの立場を活かしてより効果的な指導ができたように思う。

◇研究成果の発信・普及

- ・研究授業及び研究発表会「まなび21フォーラム」

11月13日（金） 5限 公開授業

6限 研究協議（拠点校授業担当者のコメント・公開授業についての協議）

小・中学校の拠点校の先生方や他校の先生方に公開授業を参観していただき、異なる観点から意見を聞くことができ、小中高連携について考え、自分たちの授業を振り返る良い機会となった。

また、6限終了後にはCAN-DOリストについての協議も行うことができ、小中高を通じた教育課程の在り方について考えを深める機会になった。

(6) 評価計画

○第一年次～第四年次、校種別

お お と よ 小 学 校	<p>【一年次】研究の方向性、計画などから評価を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年に2回（5月，1月）児童・教職員を対象に意識調査を実施し，情意面，英語の力について，研究の成果・課題を把握し，研究の方向の妥当性を検討する。 <p>【二年次】教育課程から評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年に2回（5月，1月）児童・教職員・保護者を対象に意識調査を実施し，情意面・英語の力について，研究の成果・課題を把握し，研究の方向の妥当性を検討する。 ・研究の内容を教育課程から検証・考察する。 <p>【三年次】児童の変容から成果や課題を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年に2回（5月，1月）児童・教職員・保護者を対象に意識調査を実施し，情意面・英語の力について，これまでの研究の成果と課題を考察する。 ・研究の経過の記録や客観的な分析により，研究そのものについて評価する。
---------------------------------	--

【平成27年度の進捗状況・課題】

〈進捗状況〉

(1) 意識調査結果・分析

〈児童 第3学年～第6学年〉

	項目	肯定的評価
1	外国語活動（英語活動）の授業は好きですか。	93%
2	あなたは，外国語活動（英語活動）の授業に進んで参加(さんか)していますか。	91%
3	あなたは，「外国語活動（英語活動）の授業」の内容をどれくらい理解(りかい)していると思いますか	78%
4	外国語活動（英語活動）の授業の中で楽しいと思うことはどのようなことですか。	
	ア 英語で歌を歌ったりチャンツを言ったりすること	98%
	イ 英語でゲームをすること	98%
	ウ 英語で友だちと会話をする	91%
	エ 英語で学校の先生と会話をする	87%
	オ 英語で外国人の先生と会話をする	96%
	カ 外国のことについて学ぶこと	94%
	キ 日本語と英語の違いを知ること	89%
	ク 英語で自分のことや意見を発表すること	80%
	ケ 英語で友だちや先生、他の人の意見を聞くこと	92%
コ 英語の絵本を読んでもらうのを聞くこと	91%	
5	あなたは，英語は好きですか。	91%
6	あなたは，英語が使えるようになりたいですか。	98%
7	あなたは，英語は大切だと思いますか。	98%
8	もし，あなたに外国の人が英語で話しかけてきたら，あなたはどうすると思いますか。	90%

〈児童 第3学年～第6学年〉

	項目	肯定的評価
9	あなたがこれから英語を使ってしてみたいことは何ですか。	
	ア 外国の人と話すこと	96%
	イ 外国の人と友達になること	96%
	ウ 外国の映画を字幕(じまく)なしで見ること	72%
	エ 英語で書かれた本を読むこと	85%
	オ 電子メールなどで外国の人に英語で手紙を書くこと	70%
	カ 英語の歌を聴(き)いたり歌ったりすること	93%
	キ 英語を使う仕事をする事	63%
	ク 海外旅行へ行くこと	93%
	ケ 英語で日本の文化を紹介(しょうかい)すること	83%

【分析】

○外国語活動又は英語自体に対して肯定的回答 90%前後の項目が多い。

●肯定的回答の低い項目として、「授業の内容への理解」「英語での意見発表」「字幕なしの外国映画鑑賞」「外国の人との電子メールでのやりとり」「英語を使う仕事」が挙げられる。授業への理解については、今年度から授業時数が増え、また外国語教育担当が入るといった新しい形となったことも一因かとも思われる。

外国映画や電子メール、また英語を使った仕事については、山間の小規模小学校であり児童の環境にあまり馴染まないものであるため関心度が低いポイントとなっている。

〈教職員 第3学年～第6学年 学級担任〉

	設問	肯定的評価
1	外国語活動を進めるうえで、次の項目は十分満たされていると思いますか。それぞれにあてはまる番号に○をつけてください。	
	ア 外国語活動の在り方についての理解	80%
	イ 学校全体での組織的な取組・教員の協力体制	80%
	ウ 授業研究など校内研修の在り方	80%
	エ 年間指導計画の作成	80%
	オ 指導案の作成や授業展開の仕方	80%
	カ 指導者の会話力や語彙力など	60%
	キ 学習評価の在り方についての理解	20%
	ク 授業で使うカードなど、教材・教具の準備	80%
	ケ パソコンや電子黒板など、機器の活用	100%
	コ “Hi、 friends!” の活用	100%
	サ ALT との打ち合わせ	100%
	シ 授業中の ALT とのコミュニケーション	80%
	ス 保護者への周知、外国語活動に対する保護者の理解	40%

	設問	肯定的評価
	セ 小学校間の連携	
	ソ 小学校と中学校の連携	100%
	タ 小中の系統的なカリキュラムの作成	40%
2	外国語活動に対するあなたの意識について教えてください。	
	ア おおよそのイメージはつかめている	80%
	イ 児童と一緒に楽しんでいる	100%
	ウ 自信をもって指導している	40%
	エ 準備などに負担感がある	40%
	オ 英語が苦手である	80%
3	外国語活動を行うことで、児童に変容が見られますか。	100%

4. 外国語活動を行うことでの具体的な変容

- ・算数や国語の時間には見られない生き生きとした表情で活動している。英語の挨拶が自然に言えるようになってきている。
- ・コミュニケーション（友だち同士）を楽しんで、表現しようとする姿がどの子にも多く見られる。

5. 今後、校内研修で取り上げたい内容

- ・外国語活動から外国語科への移行、中学校へのスムーズな橋渡しをする中で、要点としておさえるべき内容

評価について / ALT と HRT の役割分担 / 到達目標と評価のあり方

【分析】

○学校全体の外国語活動の持ち方や進め方については、おおむね肯定的な評価が多い。

●肯定的評価の低い項目として、「評価」「小中の系統性」「保護者への情報公開」「指導者の英語力」などが挙げられる。評価に関しては、来年度教科型になることもあり、講師を招聘しての講話を数回持つなどして教職員の理解を高めていった。「小中の系統性」については、CAN-DO リスト形式の到達度目標を今年度作成し来年度からの活用となる。「保護者への情報公開」については、2学期の町教育研究発表を参観授業とし保護者に公開とした。また、学校だよりや学級だよりなどで随時授業の様子を発信するようにした。「指導者の英語力」については、クラスルームイングリッシュの使用頻度の多い表現を練習した。

(2) 児童の英語力については、英検 Jr.での達成率をみる。(未受検 1月実施予定)

〈課題〉

- ・児童・教職員とも外国語の授業を好き、楽しいと感じる児童の割合は高い。しかし、授業の活動への楽しさや表現への意欲を評価している感がある。ゲーム等の活動の楽しさからコミュニケーションをとることの楽しさや奥深さを味わわせたい。
- ・学習意欲向上やコミュニケーションへの積極性を高めていくために、児童一人一人の特性を活かし励ます肯定的評価を工夫する。

大豊町中学校

【一年次】研究の方向性，計画などから評価を行う。

- ・年に2回（5月，1月）生徒・教職員を対象に意識調査を実施し，情意面・英語力について分析し，研究の成果・課題を把握し，研究の方向を検討する。
- ・高知県学力定着状況調査（1月）標準学力調査等（4月）の結果を分析し，学力状況を把握し，研究の方向の妥当性を検討する。

【二年次】教育課程から評価する。

- ・年に2回（5月，1月）生徒・教職員を対象に意識調査を実施し，情意面・英語力について，研究の成果・課題を把握し，研究の方向の妥当性を検討する。
- ・高知県学力定着状況調査（1月，標準学力調査等（4月）の結果から分析し，学力状況を把握し，研究の方向の妥当性を検討する。
- ・研究の内容を教育課程から検証・考察する。

【三年次】生徒の変容から成果や課題を評価する。

- ・年に2回（5月，1月）生徒・教職員を対象に意識調査を実施し，情意面・英語の力について，研究の成果・課題を把握し，研究の方向の妥当性を検討する。
- ・高知県学力定着状況調査（1月）標準学力調査等（4月）の結果から分析し，学力状況を把握し，研究の方向の妥当性を検討する。
- ・研究の経過の記録や客観的な分析により，研究そのものについて評価する。

年間2回（5月、1月）生徒・中学校外国語担当教員を対象に意識調査を実施し，情意面について調査・分析する。生徒の英語力については，高知県学力定着状況調査を1月に実施する予定である。

（1）意識調査結果・分析

〈生徒 第1学年～第3学年〉

	設問	肯定的評価
1	英語の授業は好きですか。	54%
2	英語の授業に進んで参加していますか。	61%
3	英語の授業の内容を理解していると思いますか。	46%
4	英語の授業で次のことができていると思いますか。下の①～④のそれぞれについて，自分の考えに一番近いものを1～5の中から1つ選んでください。	
	① 日頃の友だち関係に関わらず，自分から誰にでも英語で話しかけること	32%
	② 外国人の先生に，自分から英語で話しかけること	56%
	③ 英語の先生に，自分から英語で話しかけること	46%
	④ 自分の考えなどを英語で話すこと	39%
5	小学校の英語の授業で学んだことの中で，中学校の英語の授業で役に立ったことはありますか。次のア～ソのそれぞれについて，あてはまるものを1～3から選んでください。	
	ア アルファベットを書くこと	88%
	イ アルファベットを読むこと	93%
	ウ 英語で簡単な会話をすること	95%

5	エ	英語でゲームをすること	95%
	オ	英語の歌を歌うこと	93%
	カ	英単語を読むこと	83%
	キ	英単語を書くこと	73%
	ク	英語の発音を練習すること	90%
	ケ	英語の文を読むこと	83%
	コ	英語の文を書くこと	66%
	サ	外国のことについて学ぶこと	73%
	シ	英語で自分のことや意見を言うこと	73%
	ス	皆の前で英語で発表すること	80%
	セ	友だちや先生などが英語で話しているのを聞くこと	90%
	ソ	日本語と英語の違いを知ること	80%
6	次のアからソについて、小学校の英語の授業でもっと学習しておきたかったと思いますか。		
	ア	アルファベットを書くこと	66%
	イ	アルファベットを読むこと	71%
	ウ	英語で簡単な会話をすること	80%
	エ	英語でゲームをすること	63%
	オ	英語の歌を歌うこと	71%
	カ	英単語を読むこと	85%
	キ	英単語を書くこと	85%
	ク	英語の発音を練習すること	78%
	ケ	英語の文を読むこと	90%
	コ	英語の文を書くこと	88%
	サ	外国のことについて学ぶこと	61%
	シ	英語で自分のことや意見を言うこと	80%
	ス	皆の前で英語で発表すること	78%
セ	友だちや先生などが英語で話しているのを聞くこと	85%	
ソ	日本語と英語の違いを知ること	73%	
7	あなたは、英語は好きですか。		59%
8	あなたは、英語が使えるようになりたいですか。		90%
9	あなたは、英語の勉強は大切だと思いますか。		85%
10	もし、あなたに外国の人が英語で話しかけてきたら、あなたはどのように思いますか。		66%

	あなたがこれから英語を使ってしてみたいことは何ですか。	
	ア 外国の人と話すこと	88%
	イ 外国の人と友達になること	90%
	ウ 外国の映画を字幕(じまく)なしで見ること	29%
	エ 英語で書かれた本を読むこと	49%
	オ 電子メールなどで外国の人に英語で手紙を書くこと	71%
11	カ 英語の歌を聴(き)いたり歌ったりすること	90%
	キ 英語を使う仕事をする事	39%
	ク 海外旅行へ行くこと	83%
	ケ 英語で日本の文化を紹介(しょうかい)すること	49%
	コ その他 (英語でしてみたいことを自由に書いてください)	
12	小学校 6 年生のときの英語の授業は好きでしたか	63%
13	小学校で英語の授業を受ける前からもともと英語に興味がありましたか	37%
	小学校で英語の授業を受けていた時のあなたの考えに最もあてはまるものを 1～4 から選んでください。	
14	ア 英語で友だちのことを聞いたり話したりするのが楽しかった	80%
	イ 外国のことについて知ることができて楽しかった	76%
	ウ 先生が好きだった	85%
	エ 授業がわかりやすかった	93%
	オ 英語を聞いたり話したりする力が身についた	78%

【分析】

- 「中学校での学習でも役立っている」こととして、小学校授業で「聞いたり話したりすること」の項目に肯定的回答が多い。
- 「英語の授業が好き」「授業への参加意欲」「授業の内容理解」のいずれの項目も肯定的回答は生徒の約半数であり、単元ゴール、授業での活動、評価等の一層の改善が求められる。
- 小学校で学習しておきたかった項目で「文を読むこと」「文を書くこと」の肯定的回答が高いことから、中学校において「読むこと」「書くこと」で課題を感じている生徒が多いことがうかがえる。
- 「英語の使用意欲」や「英語の重要性」において肯定的回答が高いが、「自分から英語で話しかける」項目は低い傾向がある。また、「英語を使ってしてみたいこと」では人とのコミュニケーションに関わる項目に肯定的回答が多い。英語やコミュニケーションの楽しさを英語の時間に体験させ、自信をつけさせる工夫が一層求められる。

〈中学校外国語担当教員〉

観 点		6 月	12 月
◎たいへんよい ○よい △課題あり			
1	学習指導要領を理解している。	○	○
2	新しい学習評価について理解している。	○	○
3	学年目標を定めている。	○	○
4	4 技能を総合的に育成できるような 3 学年間を見通した全体計画を立てている。	○	○
5	教科書分析を通して単元でつきたい力を明確にし、評価計画を立てている。	○	○
6	外国語活動の内容や指導法を踏まえ、小学校での体験が生きるような指導計画を立てている。	△	○
7	単元でつきたい力を明確にし、ゴールとなる言語活動を工夫している。	○	○
8	単元の目標を達成するために、つながりのある単元計画（評価計画）を工夫している。	○	○
9	本時の目標を具体的に示し、生徒が見通しをもって学習し、達成感を味わえるような工夫をしている。	○	○
10	生徒が英語を使う（聞く・話す・読む・書く）活動を中心にすえている。	○	○
11	教師の英語使用量を増やしている。	○	◎
12	言語材料についての知識や理解を深める言語活動と考えや気持ちなどを伝え合う言語活動をバランスよく位置付けている。	△	○
13	生徒が考えたくなる発問や言いたくなる、聞きたくなる活動を仕組んでいる。	△	○
14	既習の内容を繰り返して指導し、定着を図るよう工夫している。	○	○
15	生徒一人一人の定着状況を把握し、子に応じた支援や指導を工夫している。	△	○
16	評価規準を基に終末の評価を行い、生徒が達成感を味わうことができるよう工夫している。	○	○
17	次時の内容や家庭学習について具体的に示している。	○	○
18	授業や家庭学習について、学習の仕方を具体的に示し、生徒自らが主体的に学習できるよう工夫している。	△	○
19	授業と関連付けた家庭学習を工夫するなど、家庭学習への動機づけを図るよう工夫している。	○	○
20	家庭学習の定着状況の把握や子に応じた評価や支援を工夫している。	△	○

【分析】

●教員の意識調査では、小中連携を視野に入れた取り組みや言語活動の工夫等、改善も見られるが、生徒が主体的に活動に取り組むための手立てや個に応じた支援や指導、また、言語活動の一層の工夫を考えていく必要がある。

(2) 生徒の英語力については、高知県学力定着状況調査での達成率を見る。（未受験 1 月実施予定）
また、英語検定の 3 級取得率（3 年生）は 1 2 月末現在で 5 0 % である。

【一年次】研究の方向性、計画などから評価する。

- ・年に2回（4月，2月），生徒・教員対象のアンケート調査を実施し，情意面・指導体制などについて，研究の成果・課題を把握し，研究の方向性の妥当性を検討する。
- ・学力定着把握検査（4月，9月）の結果を分析し，学力状況を把握し，研究の妥当性を検討する。
- ・英語検定の取得率により，外部指標による生徒の英語力の定着状況を把握する。

【二年次】学習到達目標から評価する。

- ・年に2回（4月，2月），生徒・教員対象のアンケート調査を実施し，情意面・指導体制などについて，研究の成果・課題を把握し，研究の方向性の妥当性を検討する。
- ・学力定着把握検査（4月，9月）の結果を分析し，学力状況を把握し，研究の妥当性を検討する。
- ・英語検定の取得率により，外部指標による生徒の英語力の定着状況を把握する。

【三年次】学習到達目標から評価する。

- ・年に2回（4月，2月），生徒・教員対象のアンケート調査を実施し，情意面・指導体制などについて，研究の成果・課題を把握し，研究の方向性の妥当性を検討する。
- ・学力定着把握検査（4月，9月）の結果を分析し，学力状況を把握し，研究の妥当性を検討する。
- ・英語検定の取得率により，外部指標による生徒の英語力の定着状況を把握する。

【平成27年度の進捗状況・課題】

◇年に2回（4月，2月），生徒・教員対象のアンケート調査の結果

- ・情意面・指導体制などについて，研究の成果・課題を把握し，研究の方向性の妥当性を検討する。

アンケート

- ・4月のアンケートで，「英語が好きですか」という質問に対する回答では，好き12%，まあまあ好き30%，あまり好きではない39%，嫌い19%と半分以上が好きではないという結果であった。
- ・「英語学習活動の中で何が一番好きですか」という質問に対しては，好きな活動…聞くこと 嫌いな活動…話すこと，書くこと という結果であった。

指導体制

- ・入学後最初の10時間程度の入門期指導を行った。学校紹介ビデオの視聴，担当教員との英語での自己紹介，発音指導，中学校の文法復習，辞書指導，予習→授業→復習の流れを体験という1年全員共通メニューでスムーズに高校英語に入れるように取り組んだ。

◇英語検定の取得率による生徒の英語力の定着状況

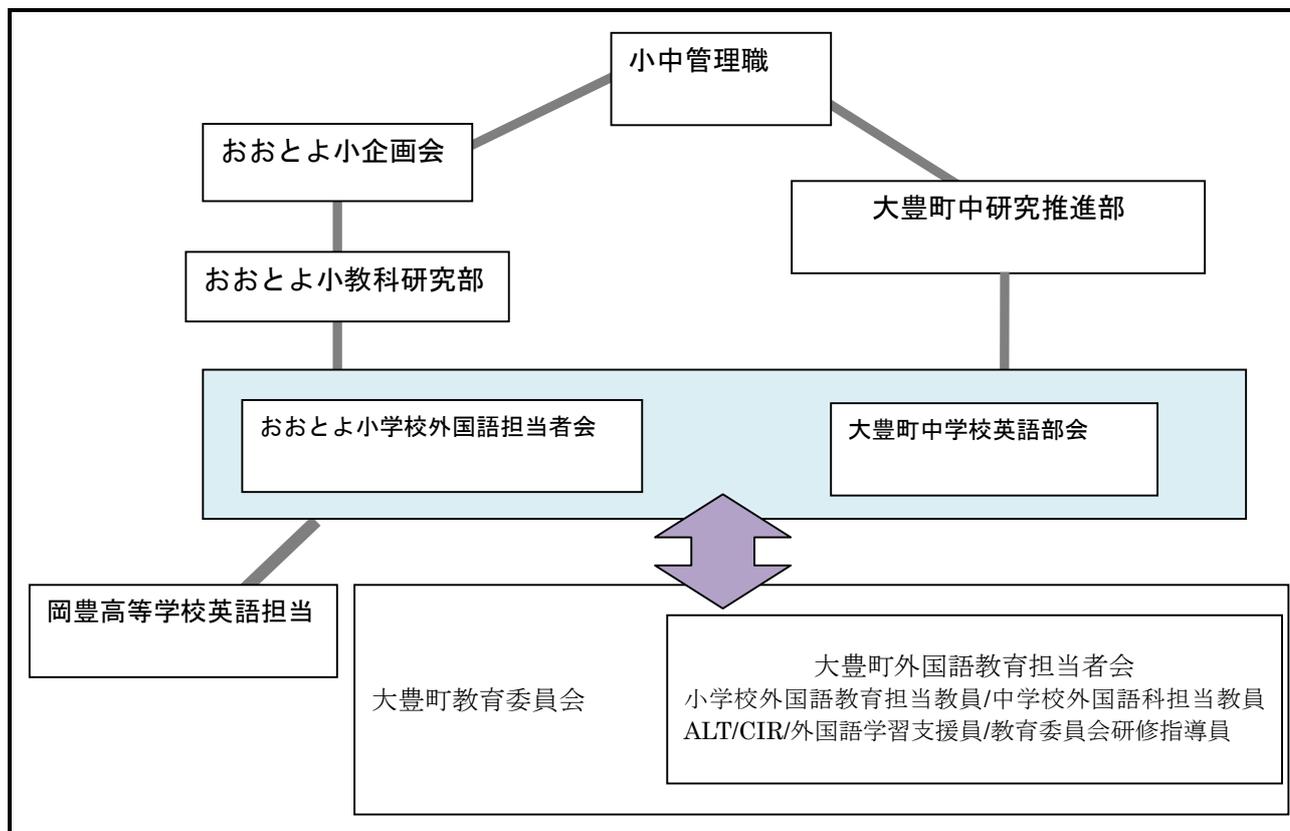
- ・外部指標による生徒の英語力の定着状況を把握する。

	2級		準2級		3級	
	受験者	合格者	受験者	合格者	受験者	合格者
第1回	6	0	39	15	5	0
第2回	4	1	9	4	7	5

- ・授業でも英検の問題を扱ったり，面談で受験をすすめる等取り組んでいる。

4. 研究組織

(1) 研究組織の概要



(2) 運営指導委員会

①活動計画

○活動計画

- ・運営指導委員は、研究校で開催される年間3回実施する運営指導委員会に出席する。
- ・運営指導委員会では、強化地域における取組や事業の方向性について指導・助言を行う。
- ・研究校における公開授業や研究協議会に適宜参加し、適切な指導・助言を行う。

【平成27年度の進捗状況・課題】

〈進捗状況〉

運営指導委員会 2回実施（第1回平成27年6月29日 第2回平成28年2月16日予定）
（第1回）

日時：平成27年6月29日（月） 13:30～17:00

会場：南国市立日章小学校

内容：公開授業、公開授業についての研究協議、県からの事業説明、各校の取組報告及び協議、
運営指導委員からの指導助言

運営指導委員からの指導助言内容：

①授業について

- ・最終タスクをどうするのかを念頭に置いた授業デザインを考える必要がある。初めて見たものを自分の言葉で伝える一番のチャレンジをさせていた。即興で失敗してもいいからチャレンジさせたい。

- ・どこかで静かな時間があってもいいのではないか。また、ALT の活用について、ナチュラルな英語を聞く時間を設けてはどうか。仕組まれた英語使用はあったが、ナチュラルなインプットを多く取りたい。

②事業について

- ・小中高連携での事業である。接続スタートアップカリキュラムや「読む」「書く」でのビジョンや身につけさせたいゴール設定を共有する。

③方向性について

- ・授業は英語で行うことを基本に、児童・生徒の英語使用のチャンスを増やすために、どのような手立てが必要かを議論する。
- ・アクティブ・ラーニングが注目されているが、知識から探求へと学びの質を変換させていくことが大切。

(第2回予定)

日時：平成28年2月16日(火)

会場：大豊町立おおとよ小学校

内容：公開授業，研究協議，県からの事業説明，各校の取組報告及び協議，運営指導委員からの指導助言

〈課題〉

本年度は、年間3回の運営指導委員会及び連絡協議会を予定していたが、形式的なものよりも実質的な担当者会を充実するように、運営指導委員会を2回実施し、小中高の担当者が交流できるように連絡協議会を3回もつようにした。そこでは、高等学校教員が小・中学校に赴き、授業交流を行ったことを基にCAN-DO リスト形式の学習到達目標を協議したり、互いの指導内容・指導方法について、情報交換したりできた。

次年度には、さらに異校種で同じ言語材料や表現を系統的に扱うのかを協議できる機会を持ちたいと考える。

5. 年間事業計画

月	強化地域拠点の取組	運営指導委員会
4月	<input type="checkbox"/> 標準学力検査【おおとよ小 大豊町中 4/15(水)】 ・ 県教委指導主事による支援訪問 <input type="checkbox"/> 学力定着把握検査及び生徒・教職員意識調査実施【岡豊高校】 ・ 県教委指導主事による事業説明【大豊町中 4/3(金)】 ・ 第1回大豊町外国語担当者会【農工センター 4/13(月)】 ・ 県教委指導主事による事業説明【おおとよ小 4/22(水)】	
5月	◆公開授業, 研究協議, 情報交換【大豊町中① 5/25(月)】 ・ 県教委指導主事による支援訪問 <input type="checkbox"/> 児童・生徒・教職員意識調査【おおとよ小・大豊町中】	
6月	◆公開授業, 研究協議, 情報交換【おおとよ小① 6/2(火)講師招聘】 ・ 県教委指導主事による支援訪問【おおとよ小 6/24(水)指導案検討】 ◇第1回県連絡協議会【日章小 6/29(月)】	第1回運営指導委員会
7月	・ 県教委指導主事による支援訪問【おおとよ小② 7/8(水)高校教員TT授業 研究協議】 <input type="checkbox"/> オーストラリアへリベリー校訪日団交流事業【7/1 おおとよ小 5・6年生交流授業 大豊町中 全学年交流授業】 ◆公開授業, 研究協議, 情報交換【大豊町中② 7/6(月)】 ◆公開授業, 研究協議, 情報交換【大豊町中 7/7(火)】 ◆公開授業, 研究協議, 情報交換【おおとよ小 7/8(水)】	
8月	<input type="checkbox"/> 中学校3年オーストラリア交流事業実施 ・ 小中高担当者会【岡豊高 8/24 小中高接続 CAN-DO リスト作成】	
9月	<input type="checkbox"/> 学力定着把握検査【岡豊高校】 ・ 県教委指導主事による支援訪問 ・ 指導主事による支援訪問【大豊町中 9/28(月) CAN-DO リスト、スタートアップカリキュラムについて】	
10月	・ 先進校視察【10/9(金) 南国市立日章小学校】 ・ 先進校視察【10/27(火) 京都・大宅小学校】	
11月	◆公開授業, 研究協議, 情報交換【大豊町中】 ・ 町教育研究会発表 公開授業, 研究協議, 情報交換 県教委指導主事による支援訪問【おおとよ小 11/5(木)】 ・ 校内研修【大豊町中 11/10(火)講師招聘 講話】 ◆インターナショナルデイ【おおとよ小 大豊町中 11/19(木)】 ◇第2回県連絡協議会【岡豊高校 11/13(金)】 ・ 先進校視察【11/13(金) 南国市立日章小学校】 ・ 先進校視察【11/26(木) 徳島・林崎小学校】	第2回運営指導委員会

12月	<input type="checkbox"/> 生徒・教職員意識調査実施【大豊町中・高等学校】 ・県教委指導主事による支援訪問【おおとよ小 12/9(水)】 ◆公開授業, 研究協議, 校内研修【おおとよ小 12/10(木)】 関西大学初等部教諭 梅本龍多先生授業 Skype を通じ6年生 【交流授業】 ◆公開授業, 研究協議, 情報交換【大豊町中 12/17(木)講師招聘】 <input type="checkbox"/> ベネッセ学力調査 ・先進校視察【12/2(水) 南国市立日章小学校】 ・先進校視察【12/9(水) 広島市立井口中学校】 ◆インターナショナルデイ【岡豊高校 12/8(火)】	
1月	<input type="checkbox"/> 高知県学力定着状況調査実施【大豊町中】 <input type="checkbox"/> 児童・生徒・教職員意識調査【おおとよ小・大豊町中】 ・県教委指導主事による支援訪問 ・英検 Jr.実施【おおとよ小 1/18(月)】	
2月	◇第3回県連絡協議会【おおとよ小 2/16(火)予定】 ◆公開授業, 研究協議, 情報交換【大豊町中④ 2/5(金) 予定】 ◆公開授業, 研究協議, 情報交換【おおとよ小③】 ・県教委指導主事による支援訪問	第3回運営指導委員会
3月	・県教委指導主事による支援訪問	
【その他の取組】※あれば記入		